

平成29年度 全国学力・学習状況調査
～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

はじめに

本市の全国学力・学習状況調査での教科ごとの平均正答率をみますと、小学校・中学校ともに全教科で全国平均を下回りました。小学校では昨年度よりも国語B・算数Aでは全国との差が縮まり、国語A・算数Bで差が広がりました。中学校では昨年度よりも、実施したすべての科目で全国との差が縮まりました。

学校毎にみますと、小学校13校中6校、中学校8校中5校で4調査科目の平均が全国を上回りました。また、前年度より全国平均との差を縮めた学校や各教科・領域で大きく伸びた学校もありました。

このように改善の傾向が見られるものの、すべての教科において全国平均に届いていない状況にあることから、石狩市教育委員会は学校、家庭、地域の連携した取組により、子どもたちの力をより一層発揮させる必要があると受け止めています。

本調査は、「国語、算数・数学」の学力面だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した割合は、全国平均を上回っていますが、「小学生で、1日1時間以上勉強している」「中学生で、2時間以上勉強している」と回答した割合は、全国平均を下回っています。また、平日（月～金）に「3時間以上ゲームしている」「3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする」「3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする」小・中学生の割合は、昨年と比較し、増加傾向にあり、依然として全国平均を大きく上回り、家庭の学習時間とのバランスが大きな課題となっています。

学校質問紙からは、家庭学習の定着に向けた学校の取組として「家庭学習の課題を与える」「保護者への啓発」「教職員間の共通理解」などの改善が見られ、全国平均を上回りました。また、「礼儀よく、落ち着いた授業態度」「私語が少なく落ち着いている」など、規律正しく、落ち着いて生活・学習に取り組む現状も見られました。さらには、近隣の小中学校と教科の指導内容や指導方法の連携を図り、地域の人や保護者の学校支援ボランティアを積極的に受け入れるなど、学校の教育力向上に結び付けている実態も読み取れました。

本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT検査」を市内全校で実施しています。市内各校では、それらの調査結果も総合的に分析し、自校の教育指導の改善を図っていることが、設問の回答から伺えます。

教育委員会としては、今回の結果にあらわれたこれまでの取組の成果と課題を総合的に勘案し、今後の改善対策を各校と連携し進めてまいります。

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査（国語，算数・数学）
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度は、抽出（全国で約30％）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加による実施となり、平成24年度は、平成22年度同様の形式で実施されました。

平成25年度以降は、平成19年度～21年度と同様、全国すべての小中学校を対象として実施されました。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」(<http://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/index.htm>)

5. 調査実施日

平成29年 4月18日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校：市内全小学校 13校で実施 521名

中学校：市内全中学校 8校で実施 487名

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

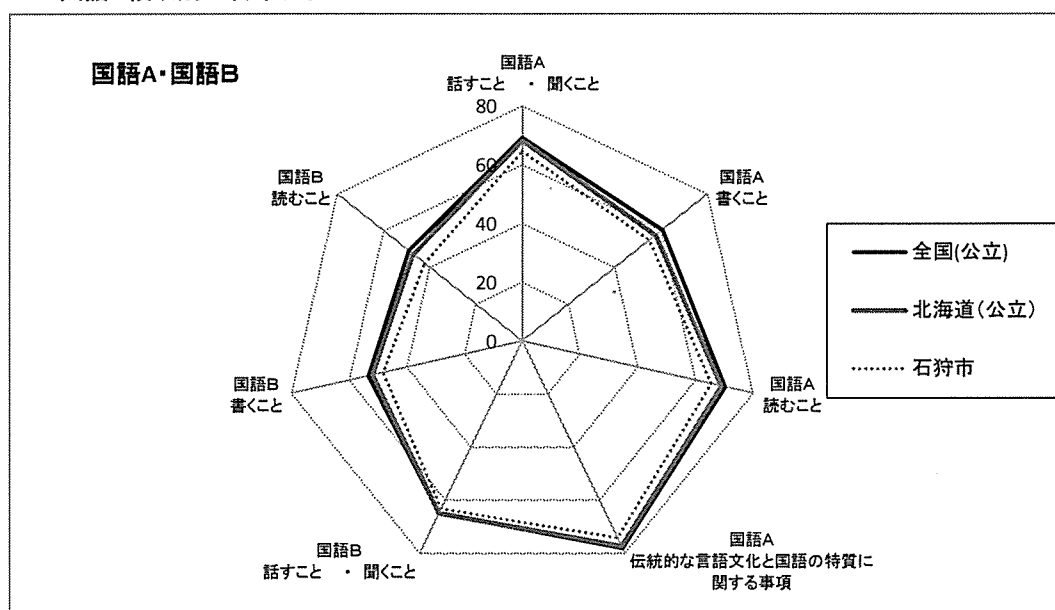
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	11.2問/15問	74.8%	5.2問/ 9問	57.5%
全道(公立)	11.1問/15問	73.7%	5.1問/ 9問	56.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				★			○						★			○		
全国 : ☆																		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語Aは全道・全国よりやや低い結果となりました。昨年度より差が広がりました。
- ◇ 国語Bについては全道よりやや低く、全国よりも低い結果となりました。昨年度より全国との差がわずかに縮まりました。
- ◇ 国語Aでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全ての領域で全道・全国との差が広がりました。
- ◇ 国語Bでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国との差が縮まりましたが、「読むこと」の領域で全道・全国との差がわずかに広がりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、国語Aで選択式が全道とほぼ同様(下位)で、全国よりやや低く、短答式では全道・全国よりもやや低い結果となりました。
- ◇ 国語Bで短答式が全道・全国と同様で、記述式が全道とほぼ同様(下位)で全国よりやや低い結果となりました。選択式は全道より低く、全国より相当低い結果となりました。

国語 A（主として「知識」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。 ・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う。 ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。 ・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む。 ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。 ・設問数は15問です。
--

【各領域の傾向】

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2一	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	書くこと	79.7%	79.0%	79.7%
4一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える	読むこと 伝統的な言語文化	73.3%	77.9%	79.4%
7 (3)	漢字を読む (申しこみ期限)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	94.2%	95.4%	94.5%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2二	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する	手紙の構成を理解し、後付けを書く	書くこと	30.1%	36.2%	41.5%
7 (1)	漢字を書く (参加たいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	29.8%	39.1%	42.0%

【指導の改善にあたって】

【書くこと】 ・日常生活において依頼状や案内状、礼状など、実用的な文章としての手紙を書く場を多く設定する。 ・また、手紙を書く場を国語科だけでなく、他教科等の中でも意図的・計画的に設定し、繰り返し確実に書けるように指導することが大切です。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ・学習した漢字を繰り返し書いて練習したり、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが大切です。
--

国語 B (主として「活用」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。
- ・目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じて適切な言葉遣いで自分の考えを話す。
 - ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
 - ・物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。
 - ・設問数は9問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道・全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と比べやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 二	グループの話し合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える	話すこと 聞くこと	69.3%	69.1%	69.2%
3 三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	書くこと 読むこと	40.9%	41.6%	43.7%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 三	「水やりに協力してくれる人をば集めます」の【イ】に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く	書くこと	29.6%	32.8%	33.0%
3 二	「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える	読むこと	18.2%	27.7%	28.0%

【指導の改善にあたって】

【書くこと】

- ・読み手に自分の考えが伝わるような文章を書くためには、目的や意図に応じ、取材した情報から必要な内容を整理し、簡潔に書けるように指導することが大切です。

【読むこと】

- ・ものの見方や考え方を広げるために、実際に物語を読んで感想を伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが大切です。

【教科に関する意識（質問紙の傾向）】

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の60.9%、全国の60.5%に対して石狩市は55.3%で、全道より5.6ポイント、全国より5.2ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.4%、全国の91.2%に対して石狩市は87.8%で、全道より3.6ポイント、全国より3.4ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の82.2%、全国の82.2%に対して石狩市は77.7%で、全道・全国より4.5ポイント低くなっています。

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

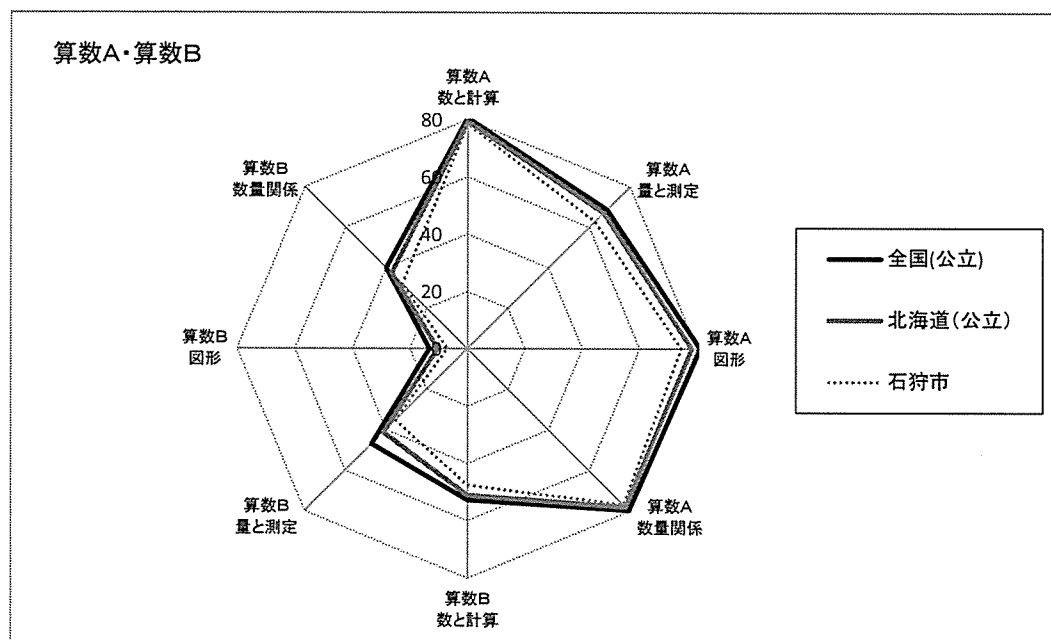
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	11.8問/15問	78.6%	5.1問/11問	45.9%
全道(公立)	11.6問/15問	77.3%	4.8問/11問	43.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(上位) ほぼ同様	同様	(下位) ほぼ同様	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	(上位) ほぼ同様	同様	(下位) ほぼ同様	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				★		○							★			○		
全国 : ☆				★		○							★			○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域別正答率グラフ □



□ 算数科の概要 □

- ◇ 算数Aの平均正答率は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりもやや低い結果となりました。昨年度より全道・全国より差が縮まりました。
- ◇ 算数Bの平均正答率は、全道・全国よりも低い結果となりました。昨年より差が広がりました。
- ◇ 算数Aでは、「数と計算」「数量関係」で全道・全国と差が縮まり、「量と測定」「図形」で差が広がりました。
- ◇ 算数Bでは「量と測定」「図形」「数量関係」で全道・全国との差が広がりました。

算数 A（主として「知識」に関する問題）

- 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。
- ・ 1 より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、それぞれの数量が数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ。
 - ・ 任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ。
 - ・ 円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く。
 - ・ 二次元表の合計欄に入る数を書く。
 - ・ 設問数は 15 問です。

【各領域の傾向】

- ・ 「数と計算」の領域は、全道・全国と比べ、ほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・ 「量と測定」の領域は、全道と比べやや低く、全国より低い傾向にあります。
- ・ 「図形」の領域は、全道と比べやや低く、全国より低い傾向にあります。
- ・ 「数量関係」の領域は、全道・全国と比べ、ほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (1)	リボンを 2 m 買ったときの代金と 3 m 買ったときの代金を書く	具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	数と計算 数量関係	96.2%	96.9%	96.9%
7	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ	立方体の面と面の位置関係を理解している	図形	82.9%	85.9%	86.7%
9 (1)	出席番号 1 番の人は二次元表のどこに入るかを選ぶ	資料を二次元表に分類整理することができる	数量関係	86.4%	88.2%	88.0%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (4)	$5 \div 9$ の商を分数で表す	商を分数で表すことができる	数と計算	65.1%	67.1%	69.2%
5	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ	高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している	量と測定	60.7%	65.5%	67.0%
6	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く	正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している	図形	66.0%	70.4%	75.5%

【指導の改善にあたって】

【数と計算】

- ・ $a \div b$ の商を $\frac{a}{b}$ という分数で表したり、 $\frac{a}{b}$ を $a \div b$ と表したりすることで、除法の被除数、除数が商の分子・分母となる関係を確実に理解できるように指導することが大切です。

【量と測定】

- ・ 底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形においては、図形の向きや形に依存せずに、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であることを理解させることが大切です。

【図形】

- ・ 円を用いて正多角形をかく活動を設け、その中で「正多角形は合同な二等辺三角形で構成されている」という性質を理解させることが大切です。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題で構成されています。
- ・二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する。
 - ・料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する。
 - ・示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら解釈し、それを記述する。
 - ・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する。
 - ・設問数は11問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道と比べ低く、全国より相当低い傾向にあります。
- ・「図形」の領域は、全道と比べやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道と比べ低く、全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	示された条件を基に、適切な式を立てることができる	数と計算	74.9%	75.6%	76.0%
5 (1)	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ	示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できる	数量関係	63.1%	64.4%	65.0%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	数と計算	19.8%	25.0%	27.4%
3 (2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	量と測定 数量関係	11.3%	18.4%	26.1%
5 (2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる	図形 数量関係	7.1%	10.4%	13.2%

【指導の改善にあたって】

- 【数と計算】
- ・三等分する点を見つける方法を、言葉・数・式・図などに対応させながら理解させていくことが大切です。
- 【量と測定・数量関係】
- ・測定値の平均を求める際には、平均がおよそどのくらいになるかを見積もったり、能率的に処理する方法を考えさせ計算させていくことが大切です。
- 【図形・数量関係】
- ・日常生活の事象を割合を活用して解釈するためには、数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確に理解できるように指導していくことが大切です。

【教科に関する意識（質問紙の傾向）】

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の63.9%、全国の65.9%に対して石狩市は62.8%で、全道より1.1ポイント、全国より3.1ポイント低くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.3%、全国の92.0%に対して石狩市は91.2%で、全道より0.1ポイント、全国より0.8ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の77.9%、全国の80.6%に対して石狩市は77.0%で、全道より0.9ポイント、全国より3.6ポイント低くなっています。

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校国語】

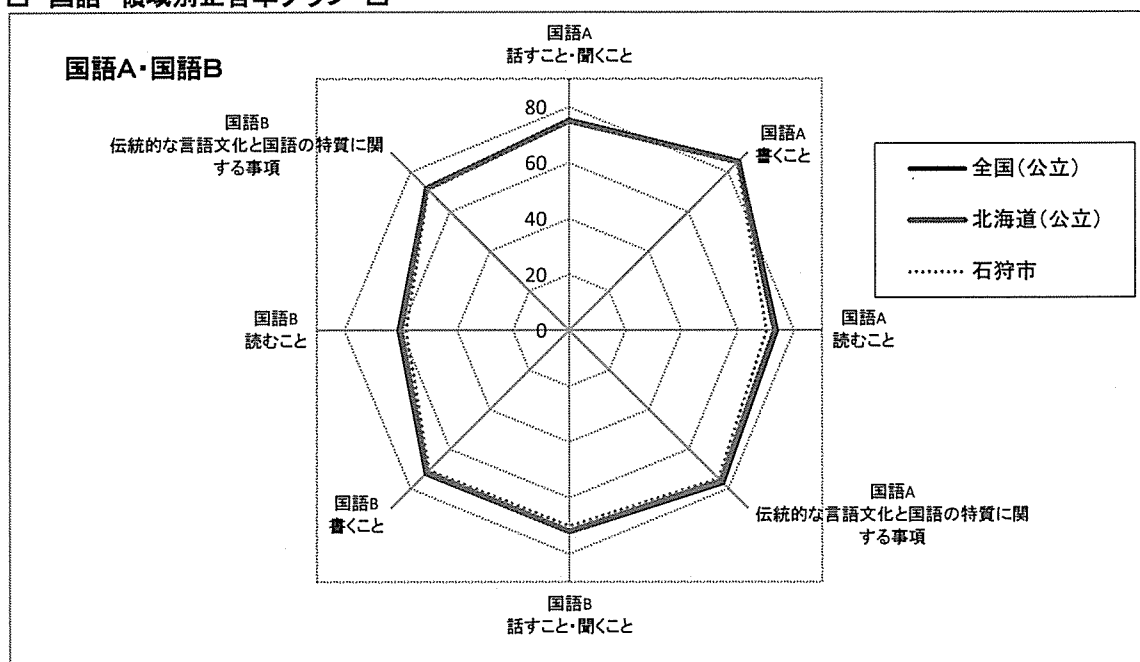
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	24.8問/32問	77.4%	6.5問/9問	72.2%
全 道(公立)	24.5問/32問	76.7%	6.5問/9問	71.7%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(上位) ほぼ同様	同様	(下位) ほぼ同様	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	(上位) ほぼ同様	同様	(下位) ほぼ同様	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆					☆	○								☆	○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語Aは全道・全国とほぼ同様(下位)の結果となりました。また、昨年度と比較し正答率が上がるとともに全道・全国との差が縮まりました。
- ◇ 国語Bについても国語Aと同様に全道・全国平均とほぼ同様(下位)の結果となり、昨年度と比較し正答率が上がるとともに全道・全国との差が縮まりました。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中で、国語Aでは「読むこと」が全国よりやや低い結果でしたが、他の領域は全て、全道・全国と同様か、ほぼ同様(下位)となり差はほとんどありませんでした。
- ◇ 国語Bでは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が、全道と同様で、他の領域は全て、全道・全国平均とほぼ同様(下位)の結果となりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、国語Aで選択式が全道・全国とほぼ同様(下位)、短答式が全道と同様で、全国とほぼ同様(下位)の結果となりました。
- ◇ 国語Bは選択式・短答式で全道・全国と同様(下位)で、記述式は全道よりやや高く、全国とほぼ同様(上位)の結果となりました。

国語 A（主として「知識」に関する問題）

- 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。
- ・スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する。
 - ・それまでがんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直す。
 - ・見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する。
 - ・「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す（あやしう）。
 - ・設問数は32問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道・全国と同様の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は全道と同様で、全国とはほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）な傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2一	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	話すこと 聞くこと	87.0%	85.9%	87.8%
3二	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する	書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す	書くこと	86.2%	83.9%	84.3%
8一	詩について説明したものとして適切なものを選択する	文章の表現の仕方について自分の考えをもつ	読むこと	83.1%	81.9%	81.9%
9二2	漢字を読む（鮮やかな色合い）	文脈に即して漢字を正しく読む	伝統的な 言語文化 と国語の 特質に関 する事項	96.9%	93.9%	94.5%
9三ア	適切な語句を選択する（えりを正して話を聞く）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う		78.2%	74.9%	76.9%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
7二	結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する	話すための材料を人との交流を通して集める	話すこと 聞くこと	78.8%	80.7%	80.4%
5一	〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成を工夫して分かりやすく書く	書くこと	77.8%	79.7%	79.8%
6一	登場する人物を整理したものにて当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	読むこと	65.6%	73.1%	74.8%
9三ウ	適切な敬語を選択する（先生もこの書店をよくご利用になるのですね）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な 言語文化 と国語の 特質に関 する事項	77.0%	82.7%	85.7%
9六1	楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する	楷書と行書との違いを理解する		32.1%	53.0%	49.6%

【指導の改善にあたって】

【話すこと・聞くこと】

話したり話し合ったりするための材料を集める際には、目的に応じて、様々な資料を有する学校図書館などの施設を利用するよう指導することが大切です。また、人との交流を通して材料を集める際には、目的を明確にした上で、誰に何を尋ねるかについて事前に検討するように指導することも重要です。

【書くこと】

伝えたい事柄や意見などを読み手に分かりやすく伝えるためには、伝えたい事柄や意見を明確にし、どのような順序で示すことが効果的であるかを考えながら書くように指導することが大切です。

【読むこと】

文学的な文章を読む際には、目的に応じて、時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むように指導する必要があります。そのために、各場面での登場人物の言動が文章全体に表れたものの見方にどのように関わっているかを考え、交流するなど文章の理解を深めるなどの学習活動が考えられます。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

書写の指導では、実際に文字を書く学習の中で、「楷書」と「行書」のそれぞれの特徴や「筆脈」など学習する際に用いる言葉について理解することができるよう指導する必要があります。

国語 B （主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能を活用できるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・ 比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く。
- ・ スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す。
- ・ アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味を持ってもらえると考えた理由を書く。
- ・ 設問数は9問です。

【各領域の傾向】

- ・ 「話すこと・聞くこと」の領域は全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・ 「書くこと」の領域は全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・ 「読むこと」の領域は全道と同様で、全国とはほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）な傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 二	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する	読むこと	86.0%	83.8%	84.1%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 三	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	書くこと 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	39.0%	40.7%	41.4%
3 三	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く	必要な情報を集めるための見通しをもつ	書くこと	64.7%	67.2%	68.8%

【指導の改善にあたって】

【書くこと・読むこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書くために、印象に残った場面や描写を取り上げ、その理由を具体的に説明する学習を進めます。また、新聞やインターネットの書評など身近な素材を用いて、自分の見方や考え方と対比させ、考えを広げたり、再構築したりする学習が効果的です。

【書くこと】

自ら課題を決めて文章を書く際には、目的や意図を明確にし、必要な情報を集めながら自分の考えをまとめるように指導する必要があることから、例えば、情報の集め方や効果的な提示の仕方などをグループで検討し、互いに話し合ったりする学習が効果的です。

【教科に関する意識（質問紙の傾向）】

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 62.6%、全国の 60.5%に対して石狩市は57.3%で、全道に比べ 5.3ポイント、全国に比べて3.2ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の88.2%、全国の88.8%に対して石狩市は88.2%で、全道・全国と同様となっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の76.9%、全国の74.9% に対して石狩市は71.8%で、全道に比べ5.1ポイント、全国に比べ3.1ポイント低くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の74.0%、全国の69.9% に対して石狩市は69.3%で、全道に比べ4.7ポイント低く、全国に比べ0.6ポイント低くなっています。
- ・国語の授業中の質問に関して、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」の肯定的な回答が全国よりもやや低い結果となりました。
- ・「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の肯定的な回答は、いずれも、全道・全国とほぼ同様となっています。

平成29年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校数学】

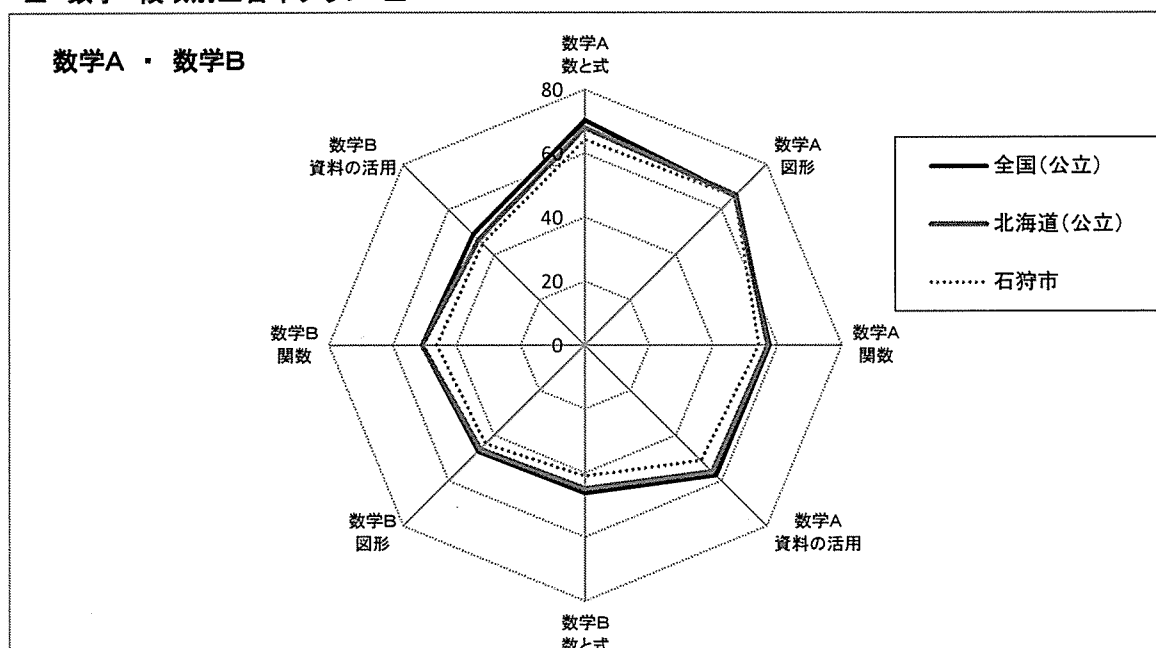
□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	23.3問/36問	64.6%	7.2問/15問	48.1%
全 道(公立)	22.9問/36問	63.7%	7.0問/15問	46.9%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆					☆	○							☆		○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域別正答率グラフ □



□ 数学科の概要 □

- ◇ 数学Aの平均正答率は、全道とほぼ同様(下位)で、全国よりやや低い結果となりましたが、昨年度より差が縮まりました。
- ◇ 数学Bの平均正答率は、数学Aと同様に全道とほぼ同様(下位)で、全国よりやや低い結果となりましたが、昨年度より差が縮まりました。
- ◇ 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」領域の中で、数学Aで「図形」が全道・全国と同様の結果でした。
- ◇ 数学Bでは「図形」「資料の活用」が、全道とほぼ同様(下位)で、他の領域は全道・全国よりやや低い、若しくは低い結果でした。
- ◇ 問題形式の正答率では、数学A・数学Bともに選択式は全道・全国とほぼ同様(下位)で、短答式は全道・全国よりやや低い結果でした。

数学 A（主として「知識」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・正の数と負の数とその計算, 文字式の計算をする。一元一次方程式や連立二元一次方程式を解く。
- ・平行移動した図形をかく。2直線に1直線が交わってできる角の位置について, 正しい記述を選ぶ。
- ・比例のグラフから式を求める。二元一次方程式の解を表すグラフを選ぶ。
- ・与えられた資料から相対度数を求める。確率について, 正しい記述を選ぶ。
- ・設問数は36問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と式」の領域は, 全道よりやや低く, 全国より低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は, 全道・全国と同様の傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は, 全道とほぼ同様（下位）で, 全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「資料の活用」の領域は, 全道よりやや低く・全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (4)	3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す	実生活の場面において, ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している	数と式	86.8%	87.6%	89.4%
4 (2)	$\triangle ABC$ を, 点Aから点Pに移すように平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかくことができる	図形	94.4%	90.6%	90.6%
11 (2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	与えられた一次関数の表において, 変化の割合の意味を理解している	関数	58.0%	58.0%	56.0%
15 (1)	さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ	「同様に確からしい」ことの意味を理解している	資料の活用	73.7%	78.6%	78.0%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において, 計算のきまりにしたがって計算できる	数と式	66.0%	70.2%	75.6%
4 (3)	半径が5cm, 中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める	扇形の弧の長さを求めることができる	図形	23.5%	31.4%	30.7%
9	長方形の縦の長さや面積の関係を, 「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	関数	18.1%	20.1%	20.6%
14 (1)	反復横とびの記録の範囲を求める	範囲の意味を理解している	資料の活用	18.7%	25.7%	28.6%

【無解答率の高い設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全 道		全 国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
10 (3)	反比例の表から比例定数を求める	与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している	関数	26.5%	21.8%	34.4%	21.8%	34.4%	20.8%

【指導の改善にあたって】

【数と式】

正の数と負の数の範囲において、計算のきまりに従って確実に計算できるように指導することが大切です。例えば、誤りのある計算を示し、正しい計算の仕方を確認する方法が考えられます。

【図形】

円形の紙を利用するなど、扇形を円の一部分として捉え、弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することを確認する指導が大切です。

【関数】

2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、「・・・は・・・の関数である」という形で表現できるよう指導することが大切です。

【資料の活用】

範囲の意味を理解できるようにするためには、資料の散らばりの程度を捉える活動を行う際に、最大値から最小値を引いた値を求めた上で、資料の範囲の意味を理解できるように指導することが大切です。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。
- ・万華鏡の模様について図形間の関係を図形の移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する。
 - ・六角形を n 個作るのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する。
 - ・与えられたデータを基に、貯水量が1500万 m^3 になるまでの日数を求める方法を説明する。
 - ・分布の形に着目して2つの度数分布多角形を比較し、運動時間が420分以上の女子の方が体力テストの合計点が高い傾向にあるといえることの理由を説明する。
 - ・設問数は15問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と式」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「資料の活用」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・無解答率が高い設問の多くは記述式問題形式で、全道・全国と同じ様な傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
4 (2)	$\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める	付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる	図形	60.4%	58.0%	60.0%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (3)	六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	数と式	6.8%	13.0%	14.5%
3 (3)	与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる	関数	37.0%	47.0%	43.2%

【無解答率の高い設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全道		全国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
3 (2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	13.1%	43.3%	15.3%	37.3%	18.4%	33.4%

【指導の改善にあたって】

【数と式】

事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるようにするためには、事柄の意味の事象に即して読み取るとともに、その根拠を明確にすることが大切です。そのためにも日ごろの授業において、説明の手順や方法を身に付けさせる取組を行います。

【関数】

問題解決において用いた式を事象に即して捉え直す活動を取り入れ、式を事象に即して解釈できるように指導することが大切です。その際に、変域を正しく求めるだけでなく、具体的な事象について、変域を使って表現することや変域を意識しながら事象を捉え説明することも大切です。

【教科に関する意識（質問紙の傾向）】

- ・「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の53.2%、全国の55.4% に対して石狩市は、59.9%で全道より 6.7ポイント、全国より4.5ポイント高くなっています。
- ・「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の79.5%、全国の81.1% に対して石狩市は75.4% で、全道より 4.1ポイント、全国より5.7ポイント低くなっています。
- ・「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の68.9%、全国の69.4% に対して石狩市は70.9% と、全道より2.0ポイント、全国より1.5ポイント高くなっています。
- ・「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の90.9%、全国の91.2% に対して石狩市は88.5% で、全道より2.4ポイント、全国より2.7ポイント低くなっています。
- ・「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の肯定的な回答は全道よりもやや高く、全国と比べ同様の結果でした。
- ・「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的な回答は、全道・全国より低い結果となりました。
- ・「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」は全道・全国とほぼ同様の結果でした。

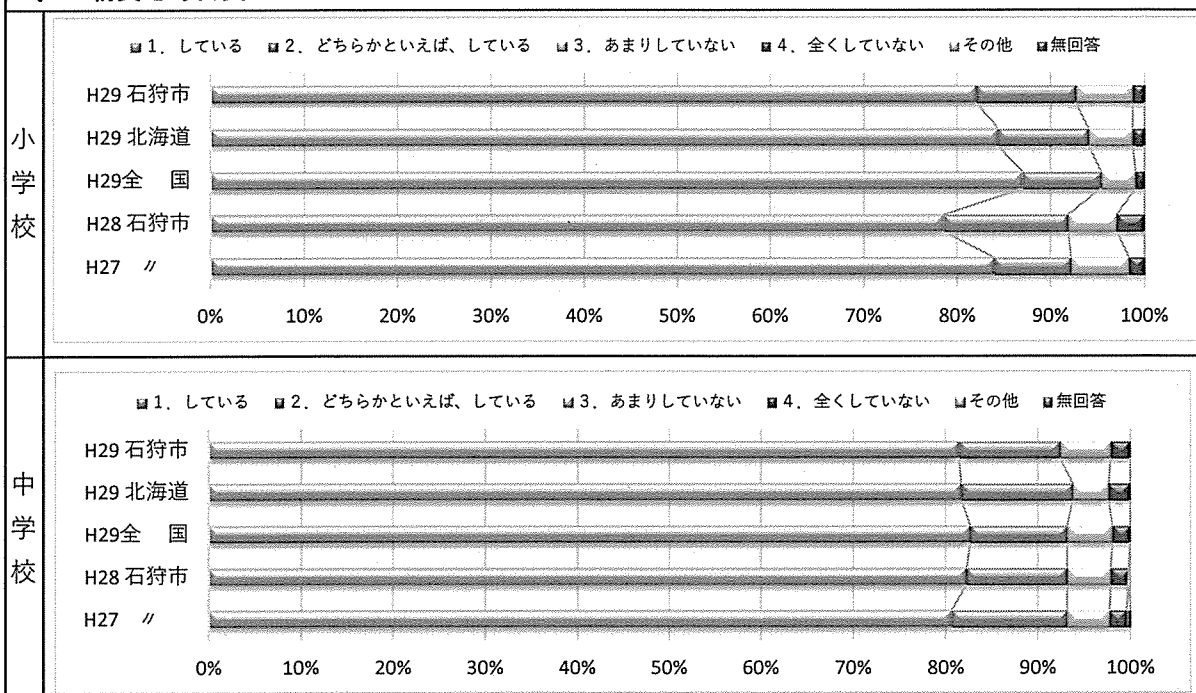
平成29年度 学習状況調査 [児童・生徒質問紙] より

I 生活習慣

朝食を食べる習慣は小学生でやや改善

・「朝食を毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小学生で92.7%(全国比-2.7ポイント, 全道比-1.4ポイント)で、中学生では、92.3%(全国比-0.9ポイント, 全道比-1.6ポイント)でした。

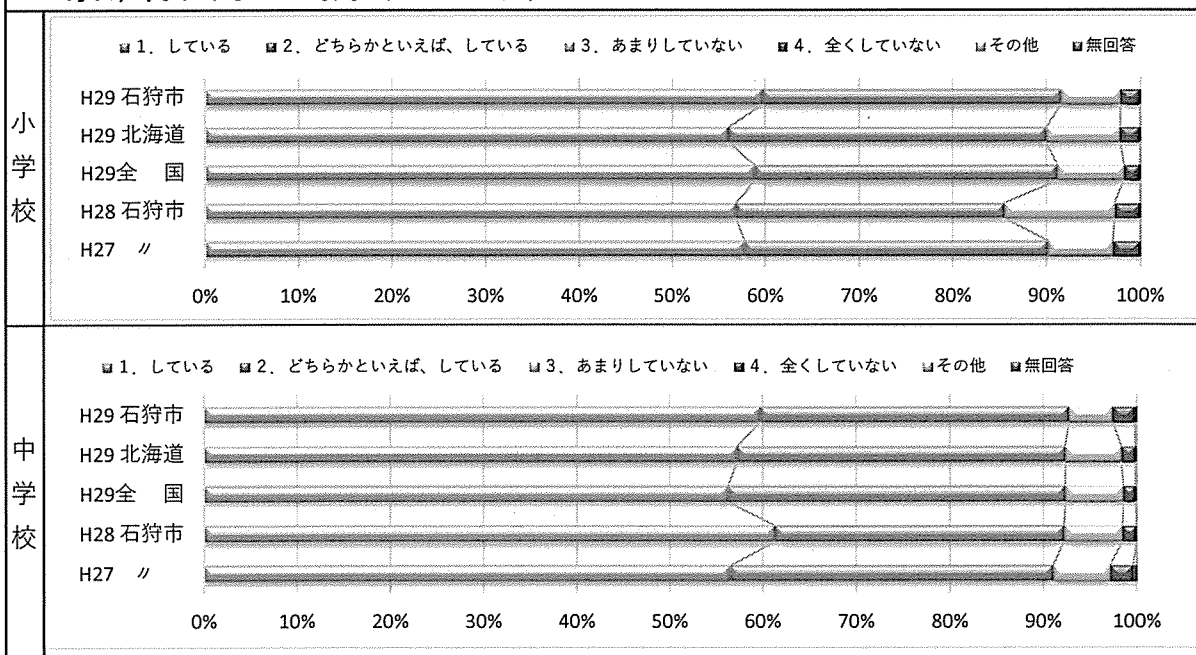
1. 朝食を毎日食べていますか



起床・就寝時刻は小学生・中学生ともに定着傾向

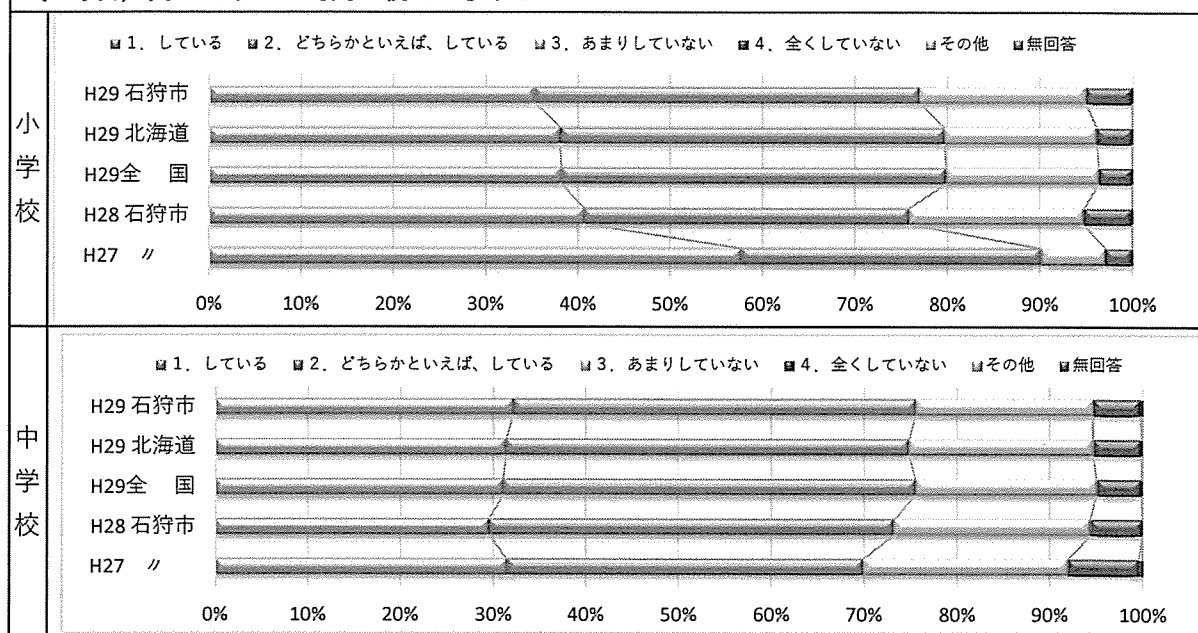
・「毎日、同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえば起きている」割合は、小学生で91.6%(全国比+0.4ポイント, 全道比+1.6ポイント)で、中学生では、92.8%(全国比+0.4ポイント, 全道比+0.4ポイント)でした。

2. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で77.0%(全国比-2.8ポイント、全道比-2.7ポイント)で、中学生では、75.6%(全国比0.0ポイント、全道比+0.7ポイント)でした。

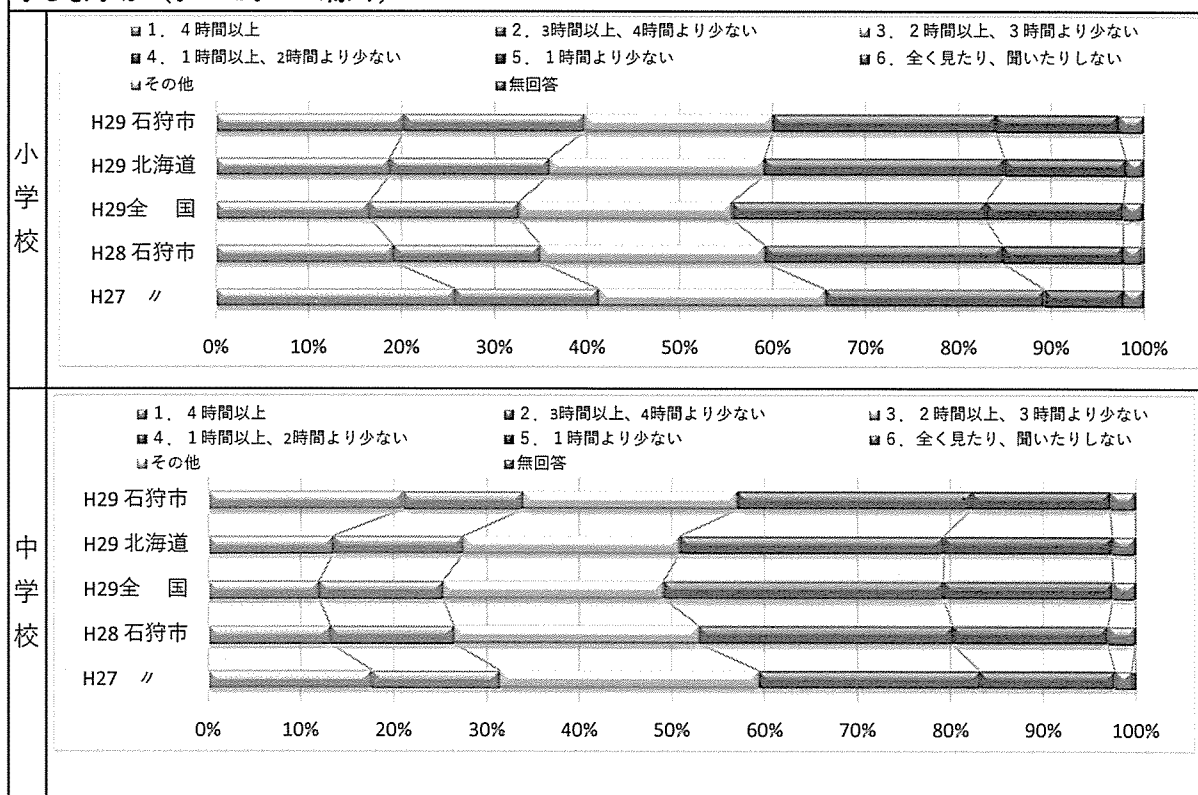
3. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



テレビ・ビデオ等の視聴やテレビゲーム等の時間は、全国・全道より相当多い傾向

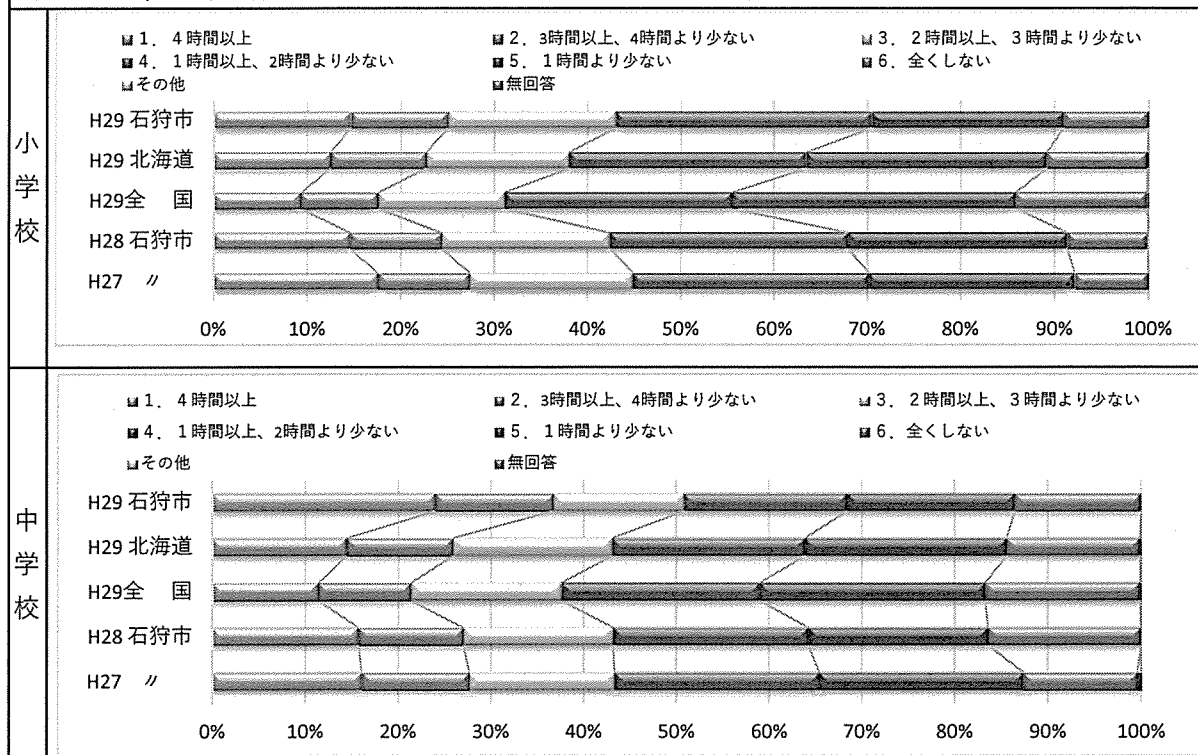
・普段(月～金曜日)、1日当たり「3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている」は、小学生で39.7%(全国比+7.0ポイント、全道比+3.7ポイント)で、中学生では、34.0%(全国比+8.7ポイント、全道比+6.5ポイント)でした。

4. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



・普段(月～金曜日), 1日当たり「3時間以上テレビゲームをしている割合は, 小学生で25.0%(全国比+7.4ポイント, 全道比+2.3ポイント)で, 中学生では, 36.7%(全国比+15.3ポイント, 全道比+10.8ポイント)でした。

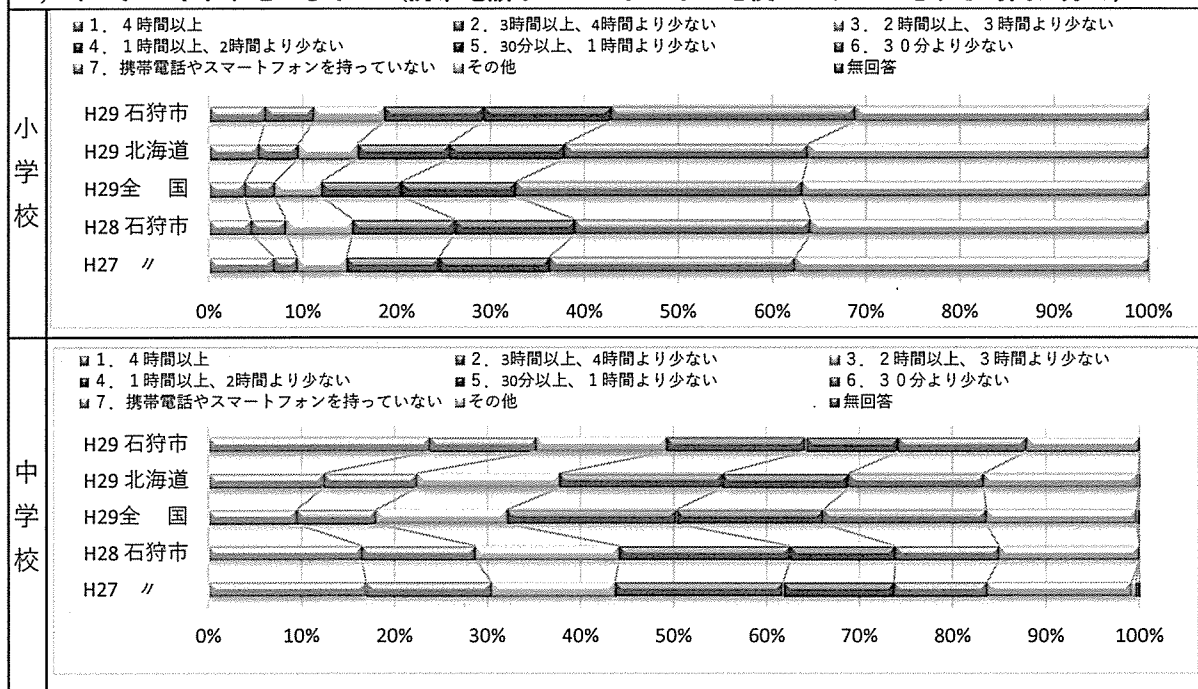
5. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



メール・インターネットの利用時間は特に中学生で相当多い傾向

・普段(月～金曜日), 1日当たり「3時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしている」割合は, 小学生で11.2%(全国比+4.2ポイント, 全道比+1.7ポイント)で, 中学生では, 35.3%(全国比+17.2ポイント, 全道比+12.9ポイント)でした。

6. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

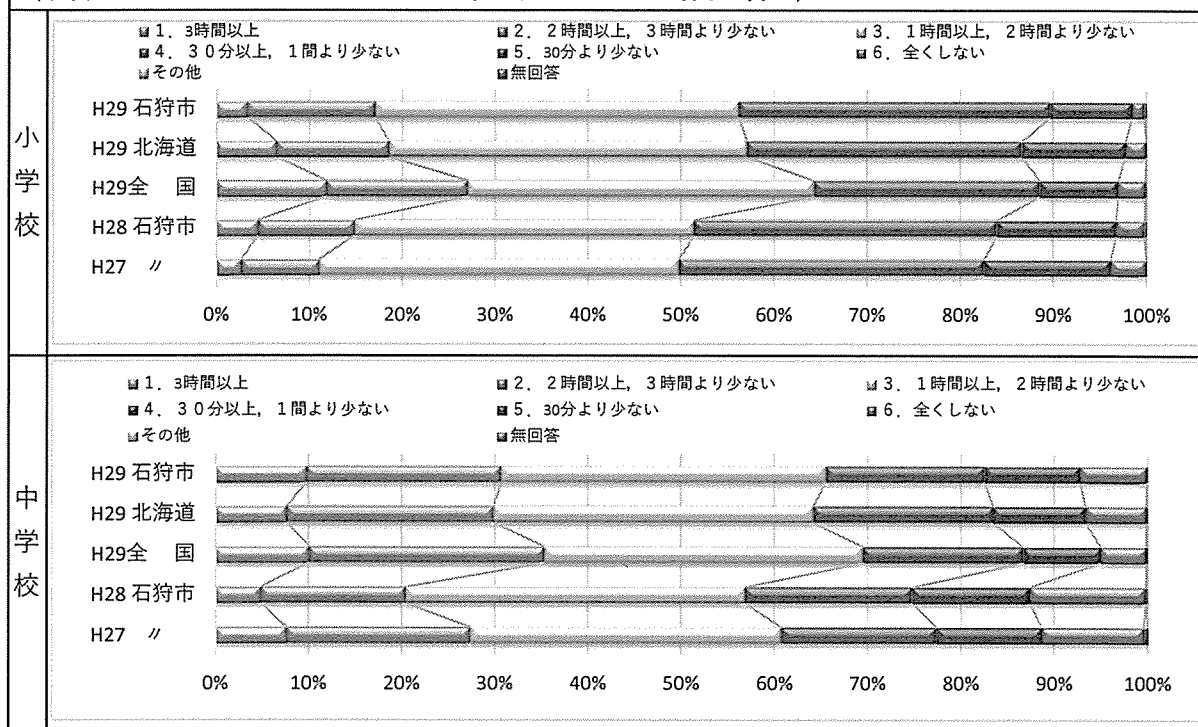


Ⅱ 家庭学習・読書

平日、土・日の学習時間は全国より少ないが、昨年度よりやや増加

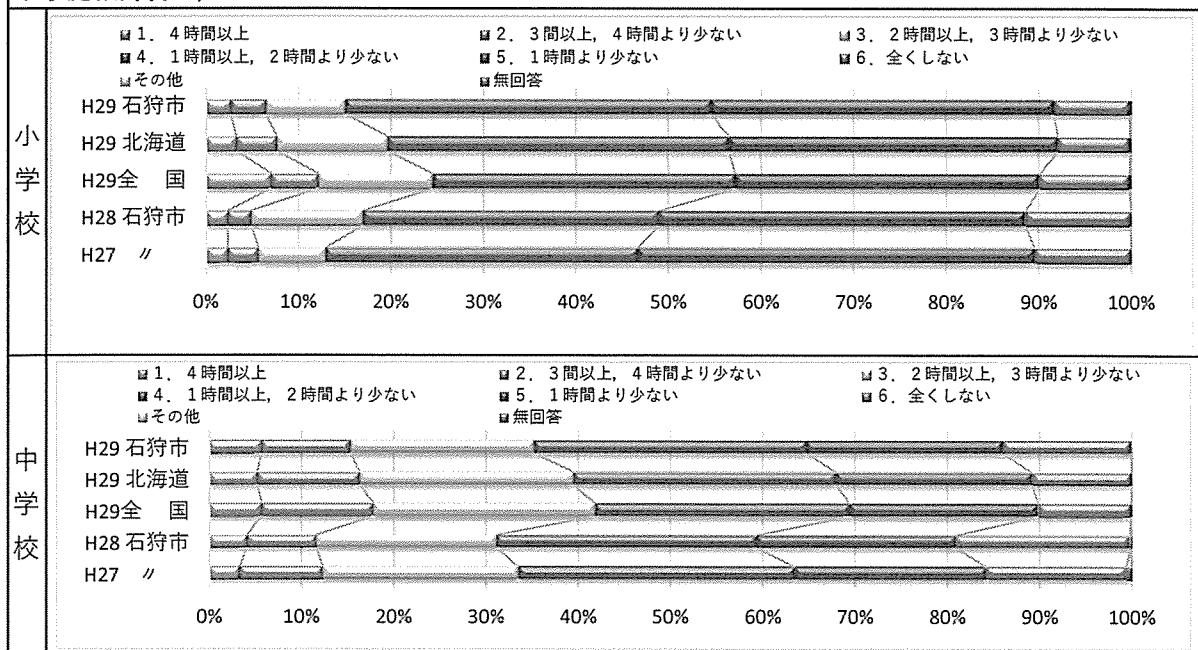
・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している小学生の割合は、56.3%(全国比-8.1ポイント、全道比-0.8ポイント)で、1日当たり「2時間以上勉強する」と回答している中学生の割合は30.7%(全国比-4.7ポイント、全道比+0.8ポイント)でした。

7. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している小学生の割合は、54.6%(全国比-2.7ポイント、全道比-2.0ポイント)で、1日当たり「2時間以上勉強する」と回答している中学生の割合35.2%(全国比-6.6ポイント、全道比-4.3ポイント)でした。

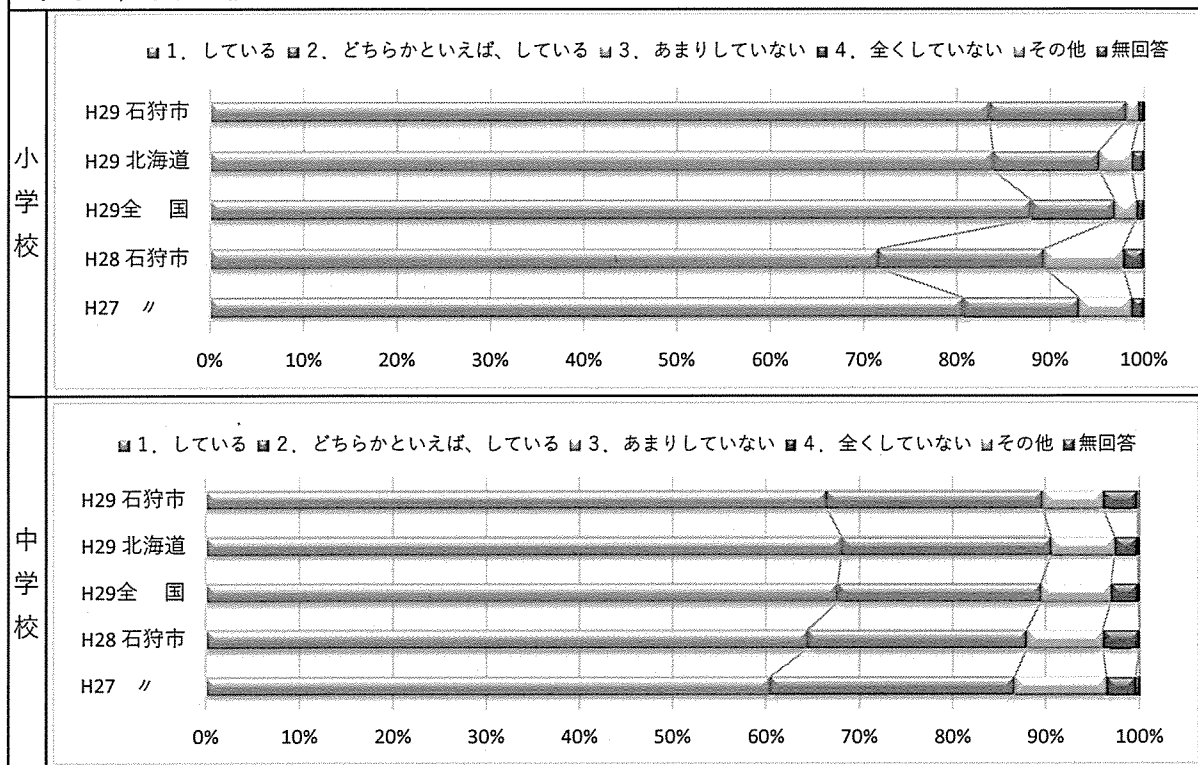
8. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



家庭での学習は定着傾向

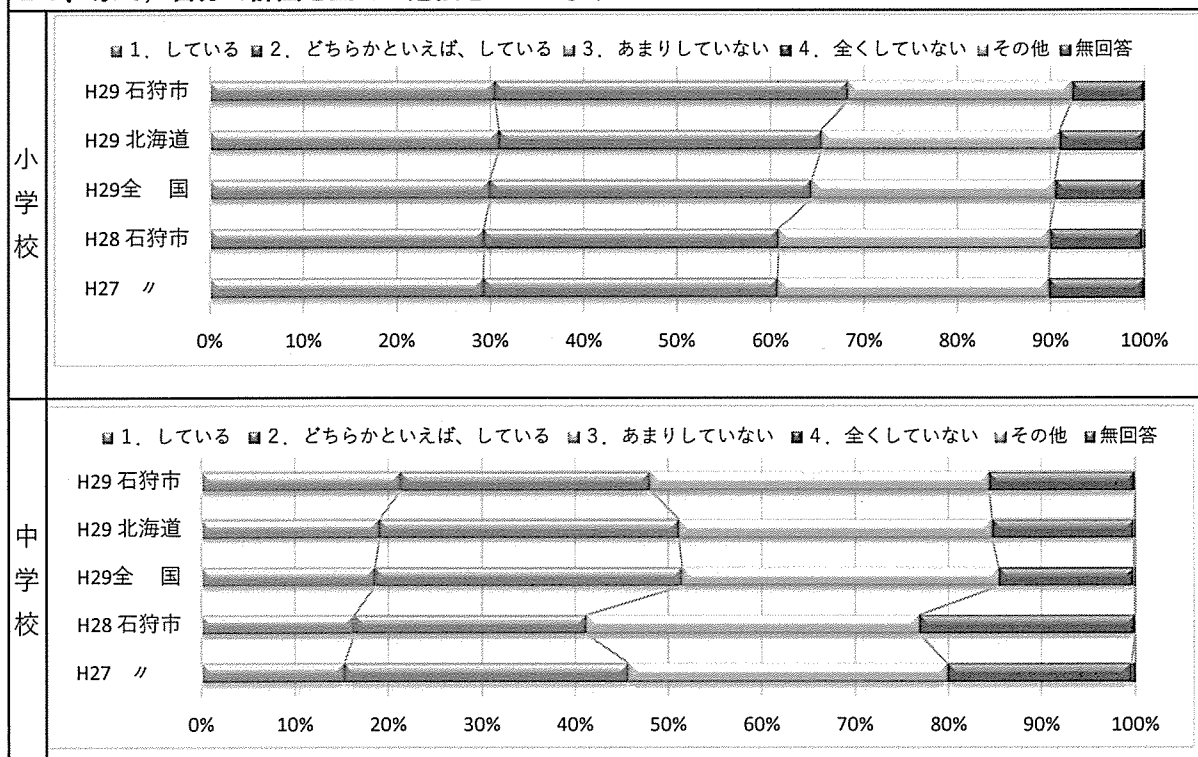
・家で、「学校の宿題をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で98.1%(全国比+1.2ポイント、全道比+2.9ポイント)で、中学生では89.8%(全国比+0.3ポイント、全道比-0.8ポイント)でした。

9. 家で、学校の宿題をしていますか



・家で、「自分で計画を立てて勉強をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で68.3%(全国比+3.8ポイント、全道比+2.9ポイント)で、中学生では48.1%(全国比-3.4ポイント、全道比-3.1ポイント)でした。

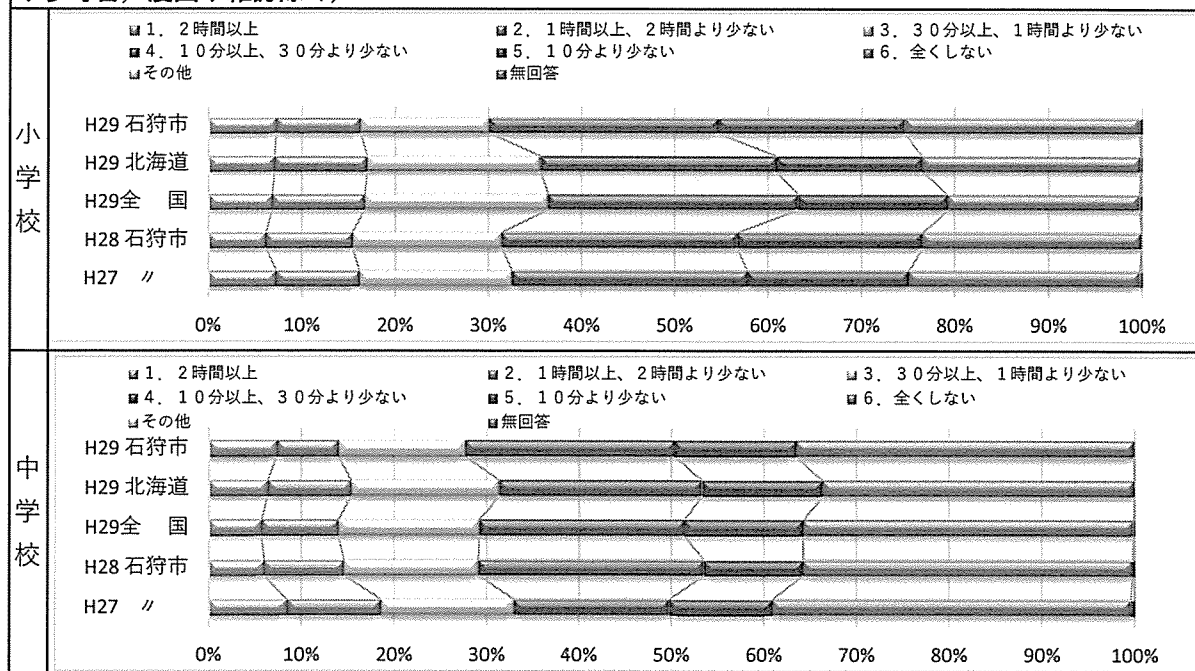
10. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



家庭や図書館で1時間以上読書をする小・中学生は、全国とほぼ同様

・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上読書をする」割合は、小学生で16.3%(全国比-0.5ポイント、全道比-0.7ポイント)で、中学生では、14.0%(全国比0.0ポイント、全道比-1.4ポイント)でした。

1 1. 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

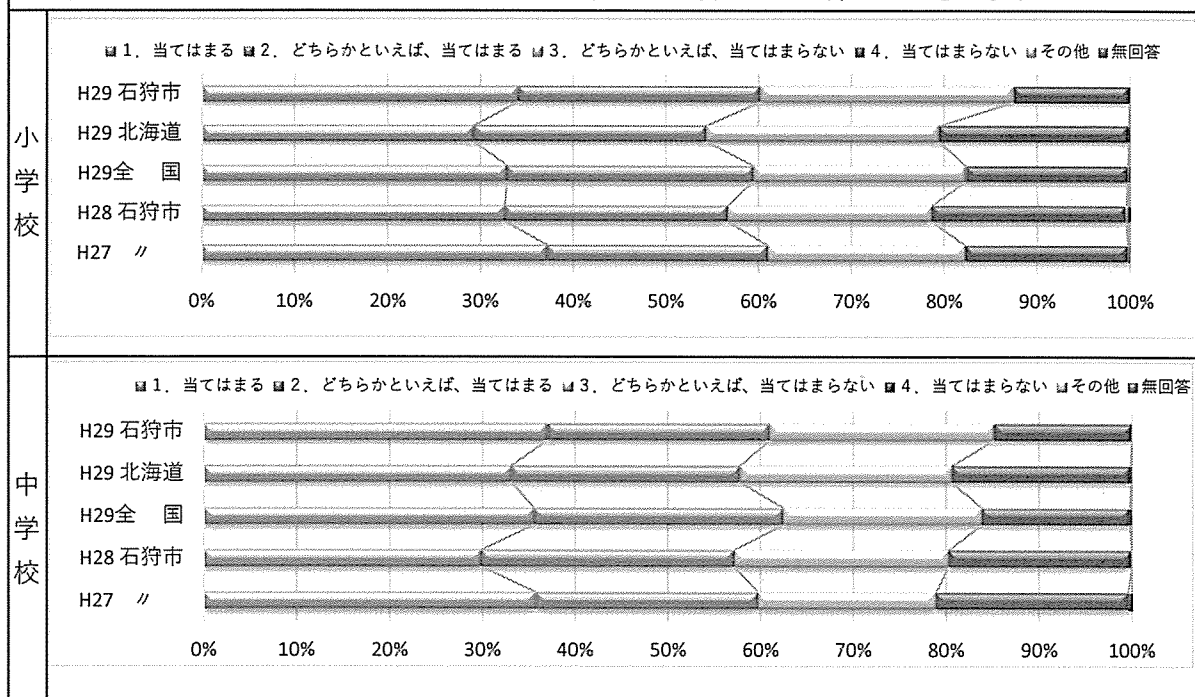


Ⅲ 国語の学習について

決められた字数の作文を苦手とする小中学生は、全国とほぼ同様傾向

・「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う・どちらかといえばそう思う」割合は、小学生で60.3%(全国比+0.8ポイント、全道比+5.9ポイント)で、中学生では61.1%(全国比-1.4ポイント、全道比+3.3ポイント)でした。

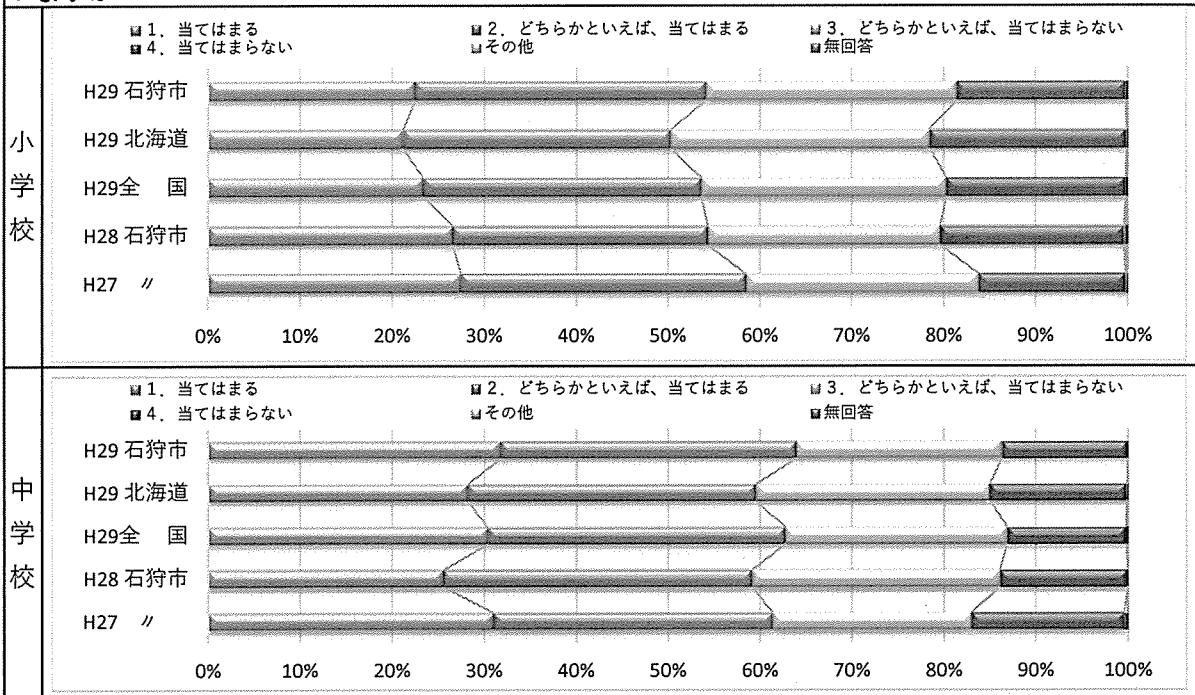
1 2. 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



自分の考えを表現することは改善傾向

・学校の授業などで、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う・どちらかといえばそう思う」割合は、小学生で54.2%(全国比+0.5ポイント、全道比+3.9ポイント)で、中学生では64.0%(全国比+1.2ポイント、全道比+4.4ポイント)でした。

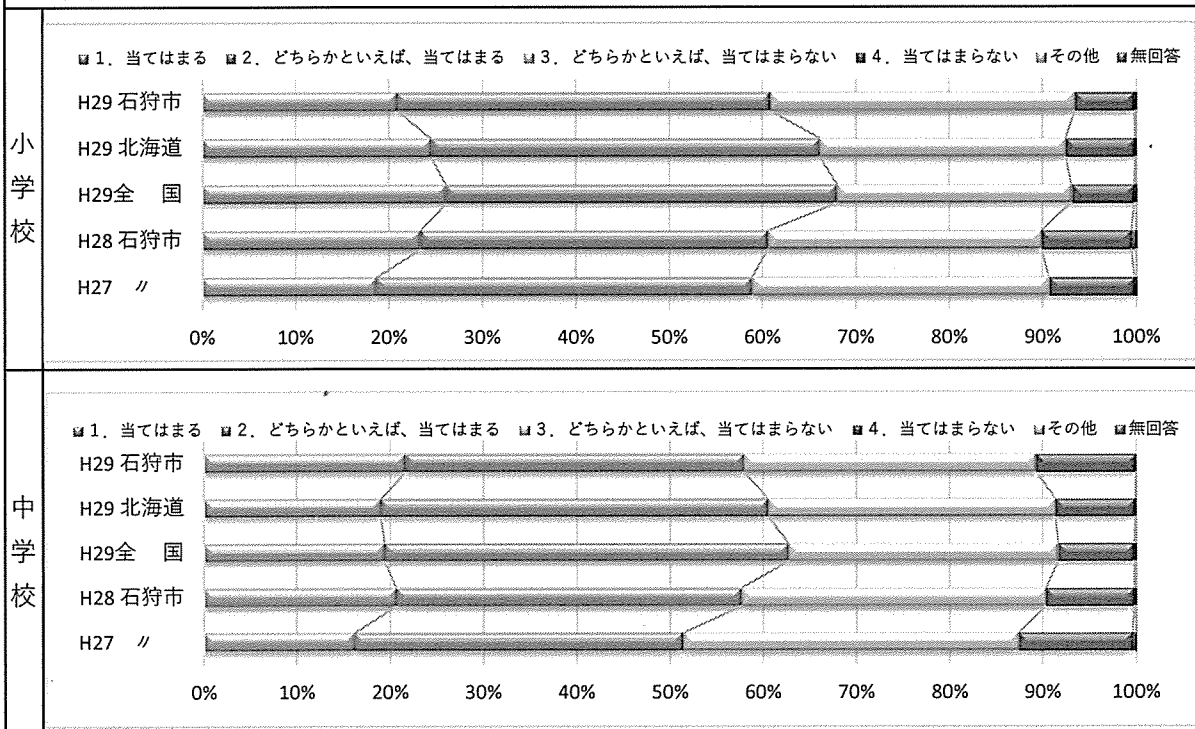
1 3. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



「国語の授業で資料を読み、表現する」は、小学生・中学生ともに課題

・国語の授業で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で60.8%(全国比-7.2ポイント、全道比-5.3ポイント)で、中学生では58.0%(全国比-4.7ポイント、全道比-2.5ポイント)でした。

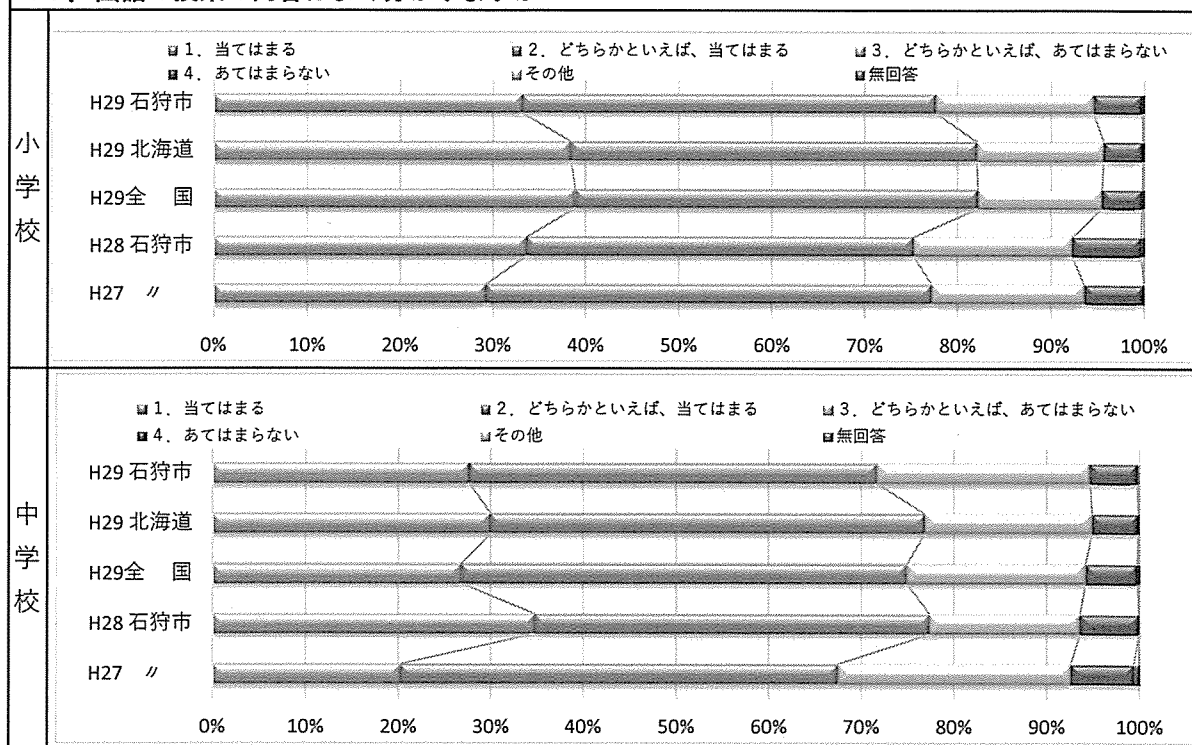
1 4. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



「国語の授業が分かる」は、小学生でやや増加

・国語の授業の内容が「よく分かる・どちらかといえば当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、小学生で77.7%（全国比-4.5ポイント、全道比-4.5ポイント）で、中学生では71.8%（全国比-3.1ポイント、全道比-5.1ポイント）でした。

1 5. 国語の授業の内容はよく分かりますか

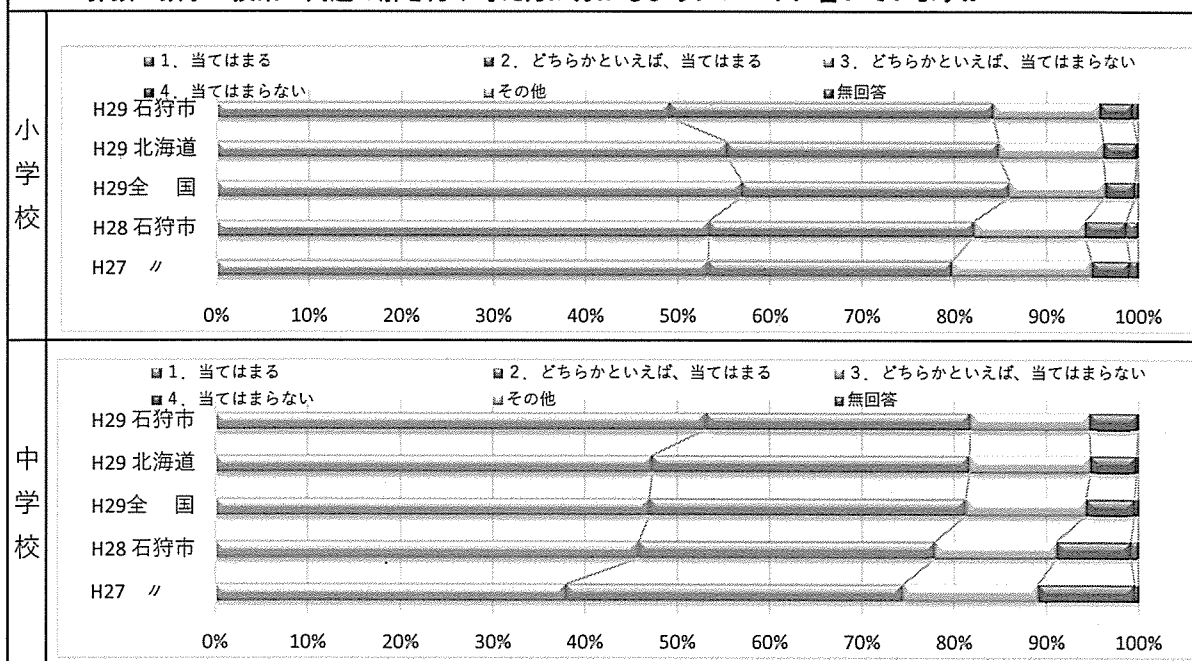


Ⅳ 算数・数学の学習について

「算数・数学のノート工夫」は、改善傾向

・算数・数学の授業で、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で84.2%（全国比-1.8ポイント、全道比-0.6ポイント）で、中学生では81.8%（全国比+0.5ポイント、全道比+0.1ポイント）でした。

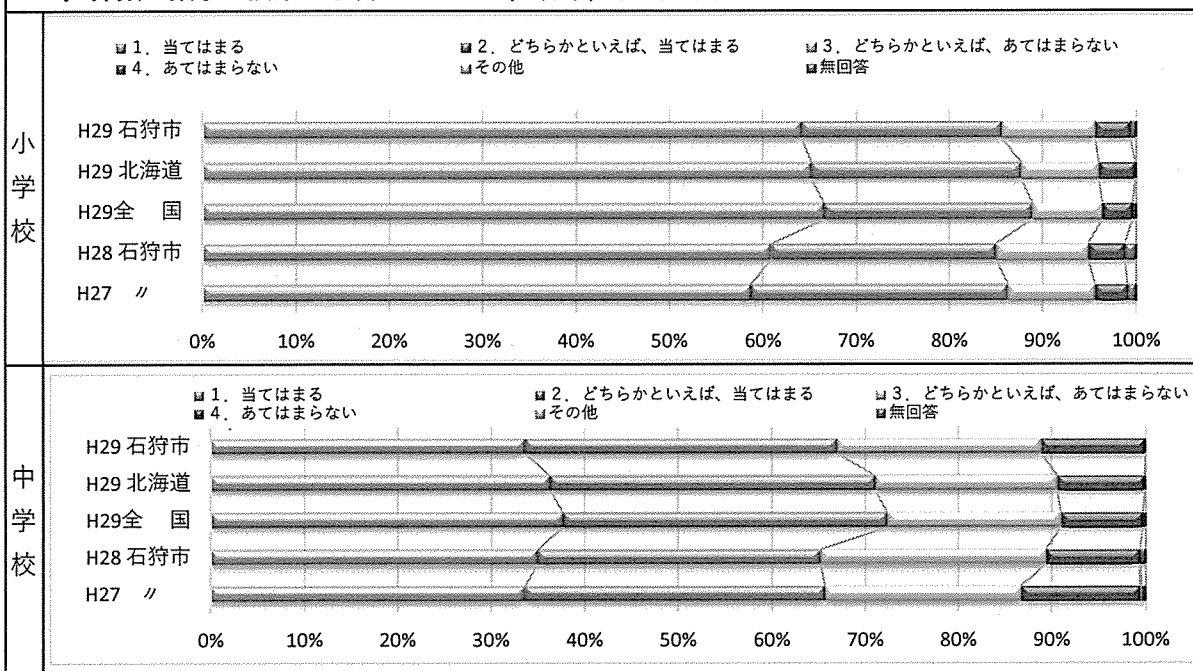
1 6. 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



「算数・数学の授業は将来役に立つ」は、特に中学生が課題

・「算数・数学の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役にたつ・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で85.6%(全国比-3.5ポイント、全道比-2.1ポイント)で、中学生では67.0%(全国比-5.4ポイント、全道比-4.0ポイント)でした。

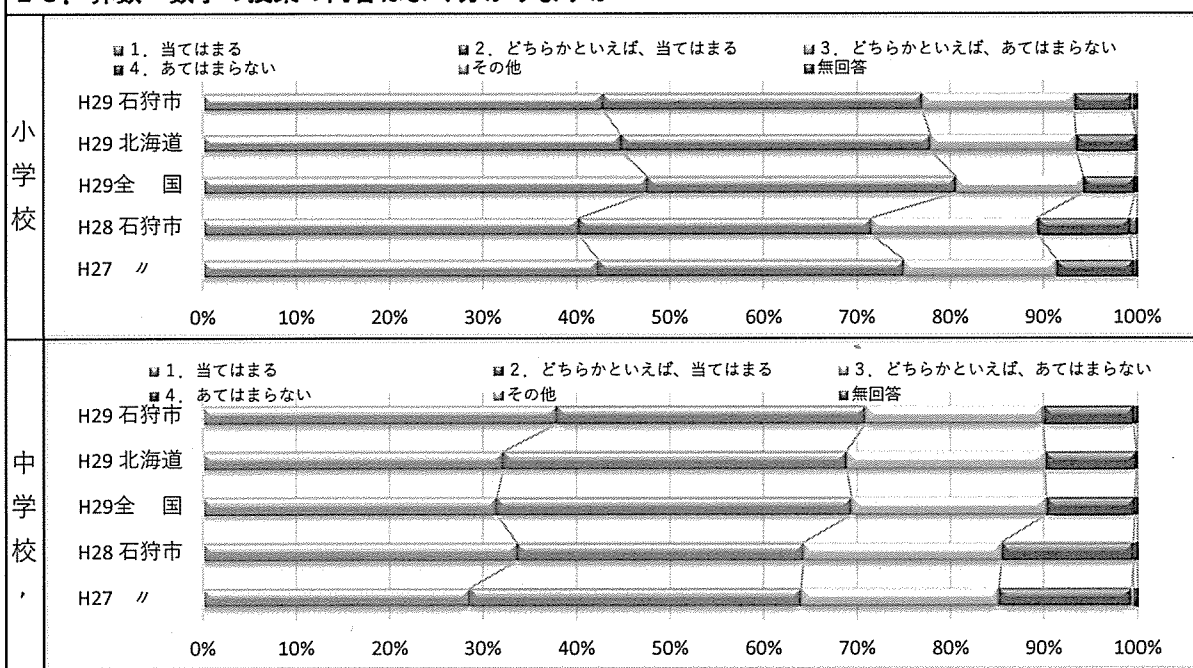
17. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役にたつと思いますか



「算数・数学の授業内容の理解」は、小学生・中学生ともに向上

・「算数・数学の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で77.0%(全国比-3.6ポイント、全道比-0.9ポイント)で、中学生では70.9%(全国比+1.5ポイント、全道比+2.0ポイント)でした。

18. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

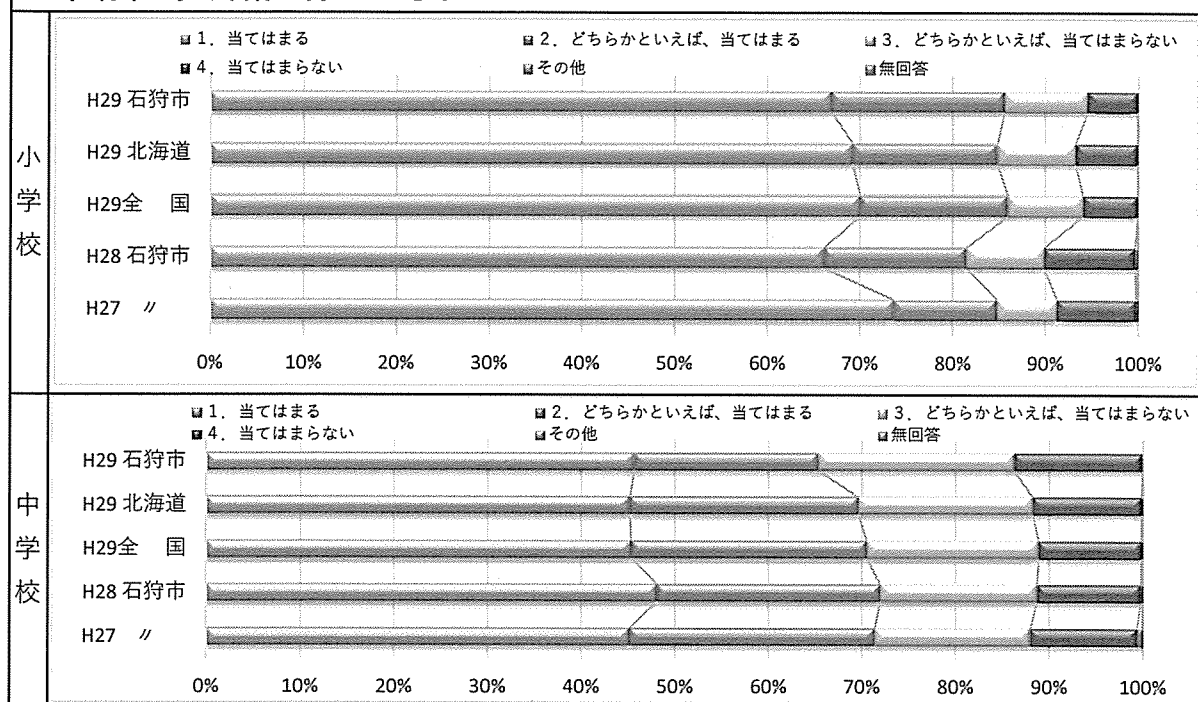


V 将来に関する意識・自尊心・自己有用感・いじめに対する意識

将来に関する意識・自尊意識は、小学生は全道・全国とほぼ同様の傾向

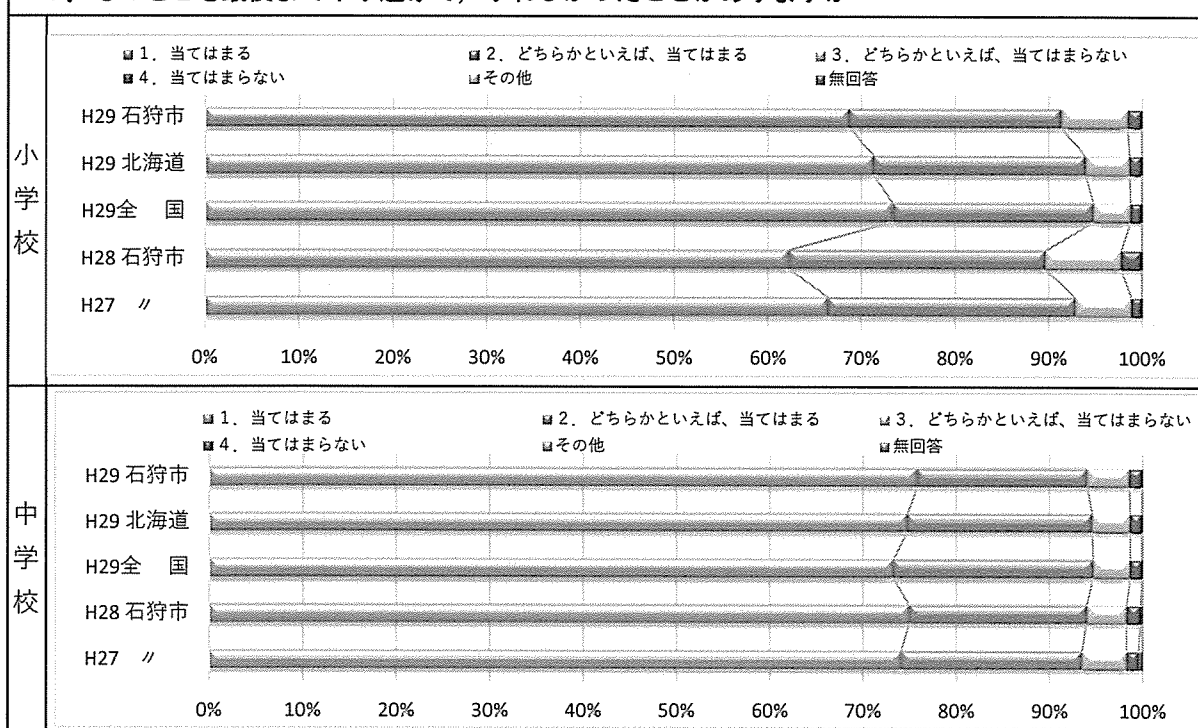
・「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で85.6%(全国比-0.3ポイント、全道比+0.8ポイント)で中学生では65.4%(全国比-5.1ポイント、全道比-4.2ポイント)でした。

19. 将来の夢や目標を持っていますか



・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で91.3%(全国比-3.5ポイント、全道比-2.6ポイント)で、中学生では94.0%(全国比-0.7ポイント、全道比-0.6ポイント)でした。

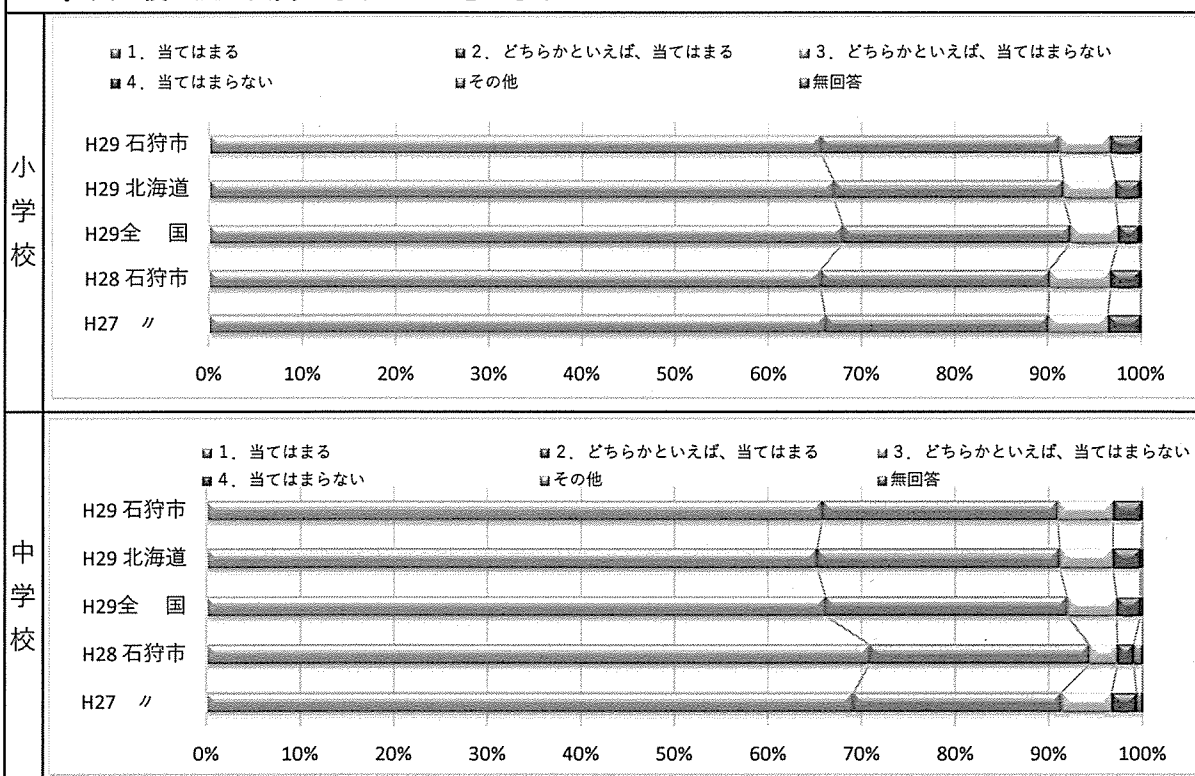
20. ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



自己有用感を持つ小学生・中学生は全国と同様で9割超

・「人の役に立つ人間になりたいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で91.3%(全国比-1.2ポイント、全道比-0.4ポイント)で、中学生では91.0%(全国比-0.9ポイント、全道比-0.3ポイント)でした。

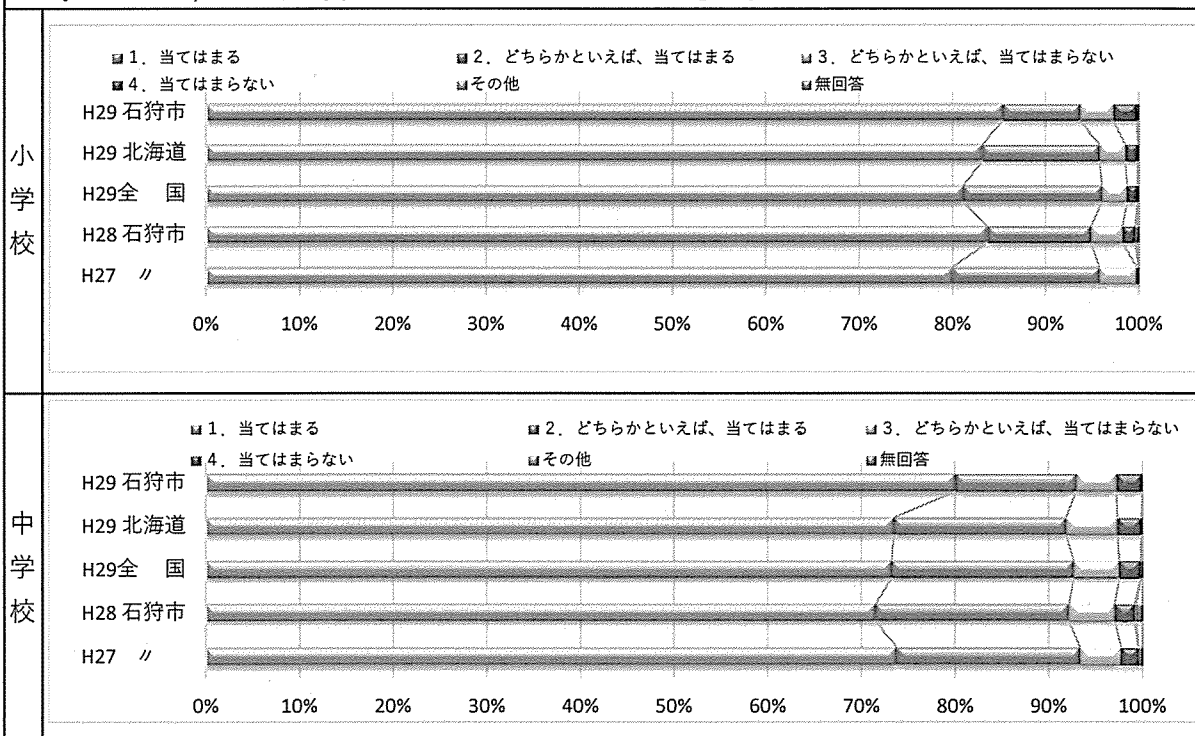
2 1. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



いじめに対する意識は定着しつつも、なお継続して取り組むべき課題

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で93.7%(全国比-2.4ポイント、全道比-2.1ポイント)で、中学生では93.0%(全国比+0.2ポイント、全道比+1.1ポイント)でした。

2 2. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



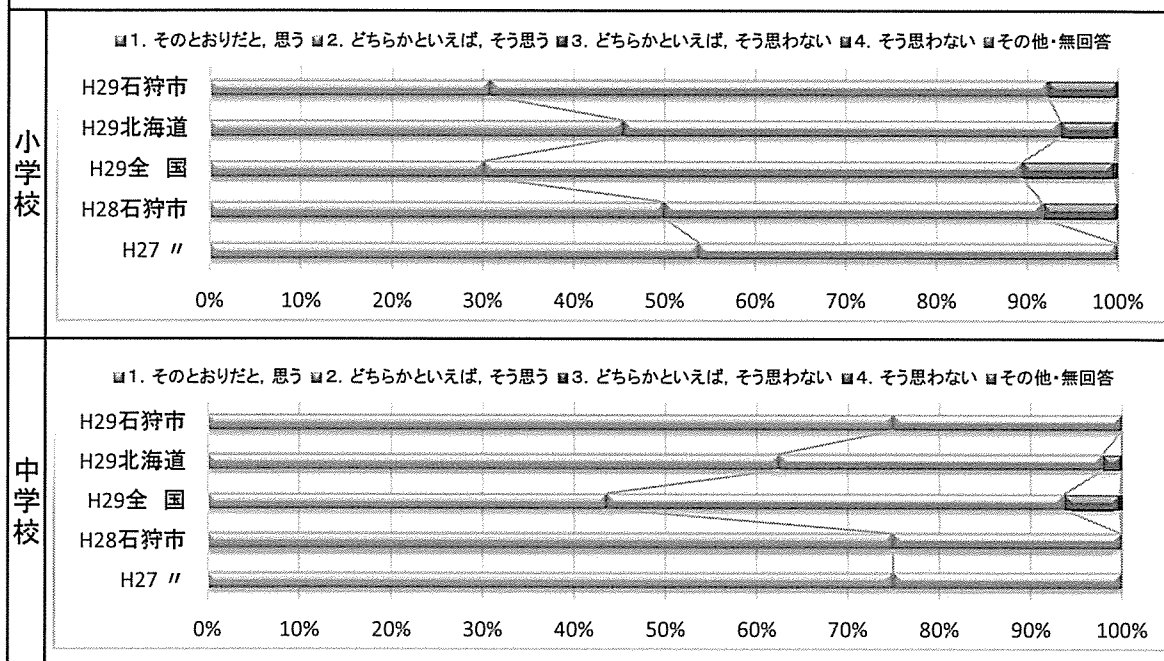
平成29年度 学習状況調査 「学校質問紙」 結果

I 学習態度・学習規律

特に中学校では、礼儀正しく、落ち着いた態度での授業が定着

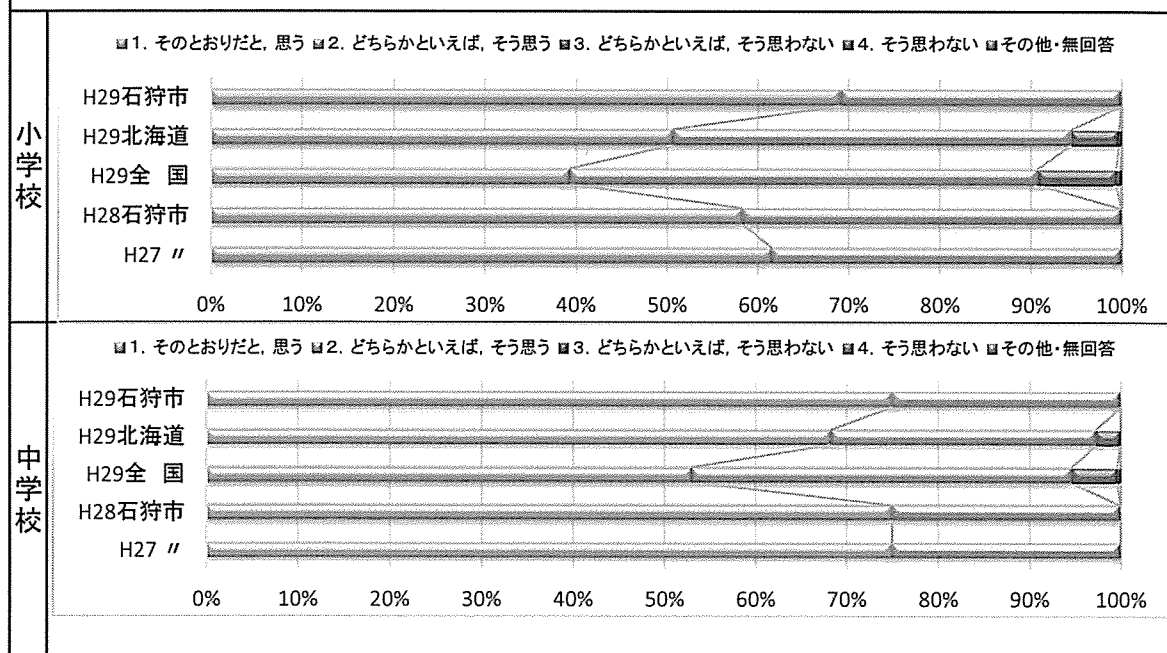
・「礼儀正しい態度」の割合は、小学校で30.8%(全国比+0.7ポイント、全道比-14.7ポイント)で、中学校では、75.0%(全国比+31.4ポイント、全道比+12.6ポイント)でした。

1. 調査対象学年の児童・生徒は、礼儀正しいと思いますか



・「私語がなく落ち着いている」割合は、小学校で69.2%(全国比+29.9ポイント、全道比+18.5ポイント)で、中学校では75.0%(全国比+22.0ポイント、全道比+6.7ポイント)でした。

2. 調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

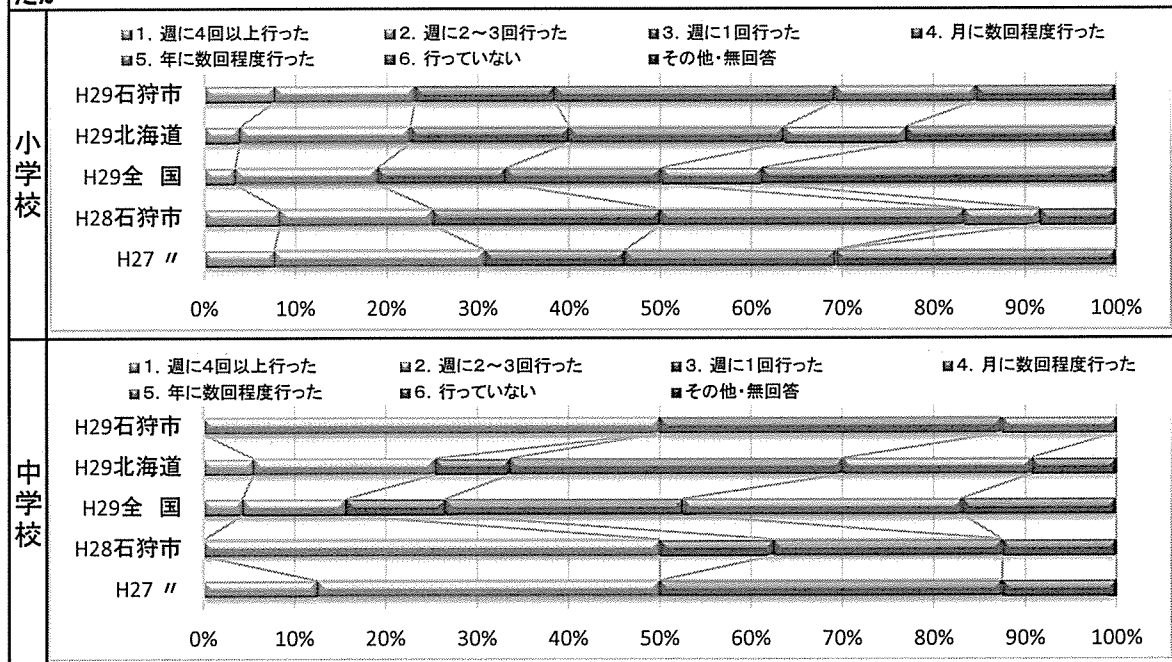


II 学力向上に向けた取組

放課後や長期休業中を利用した補充的学習サポートが定着

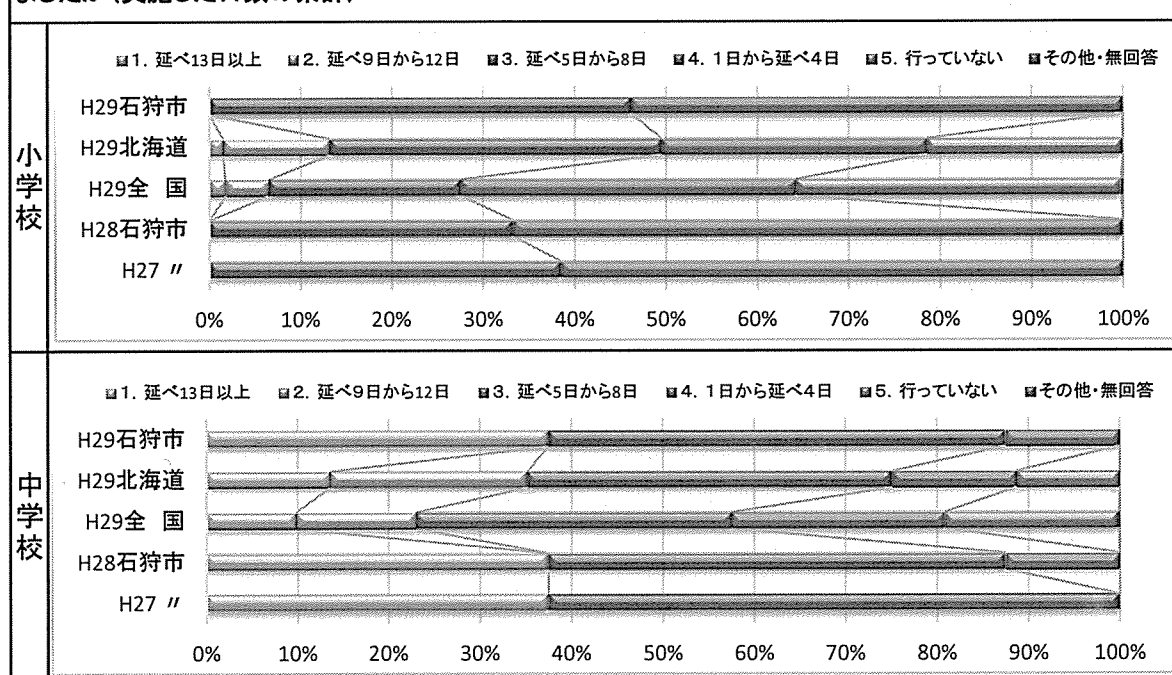
・「放課後を利用した補充的な学習サポートを週に1回以上行った」割合は、小学校で38.5%(全国比+5.4ポイント, 全道比-1.5ポイント)で中学校では, 50.0%(全国比+23.5ポイント, 全道比+16.4ポイント)でした。

3. 調査対象学年の児童・生徒に対して, 前年度に, 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



・「長期休業日を利用した補充的な学習サポートを述べ5日以上実施した」割合は、小学校で46.2%(全国比+18.7ポイント, 全道比-3.3ポイント)で, 中学校では, 87.5%(全国比+30.0ポイント, 全道比+12.4ポイント)でした。

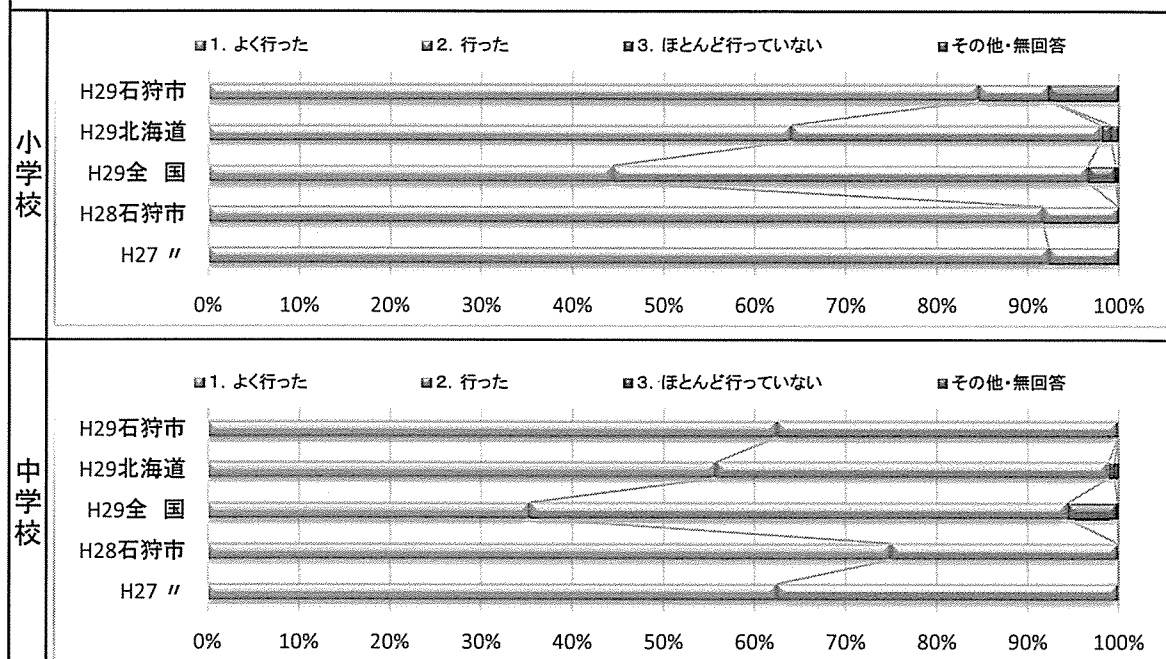
4. 調査対象学年の児童・生徒に対して, 前年度に, 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)



全国学力・学習状況調査の結果を活用して改善

・平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、「学校全体で教育活動を改善するために活用した」割合は、小学校で84.6%(全国比+40.2ポイント、全道比+20.5ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+27.1ポイント、全道比+6.7ポイント)でした。

5. 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

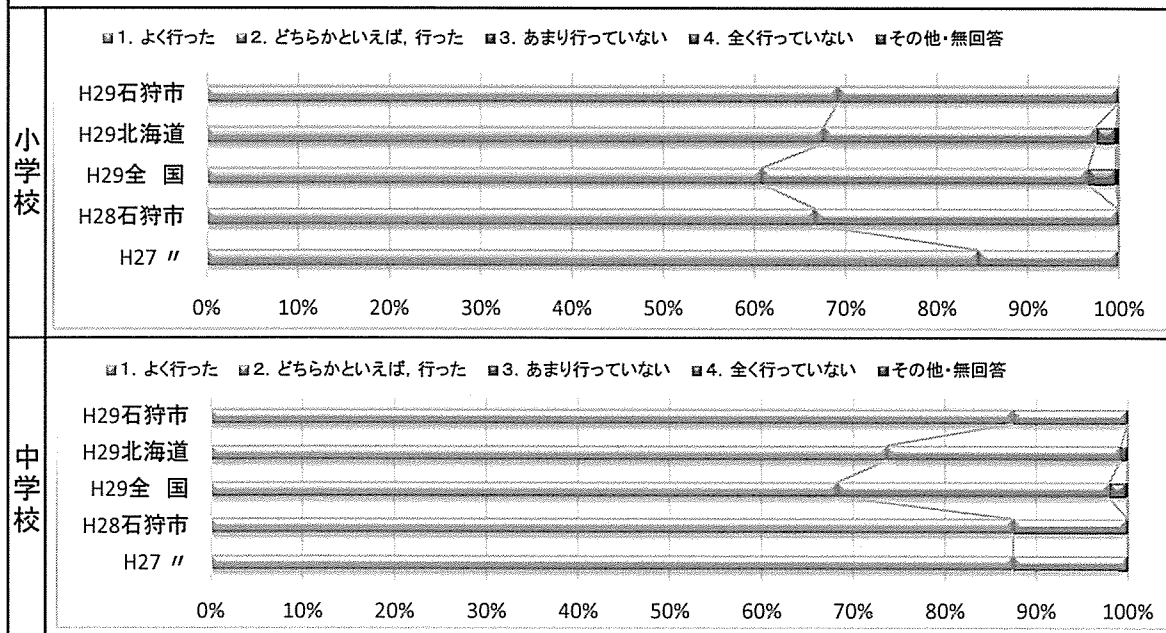


Ⅲ 指導方法・学習規律

学習規律維持の徹底は定着

・「学習規律の維持を徹底した」割合は、小学校で69.2%(全国比+8.3ポイント、全道比+1.5ポイント)で、中学校では87.5%(全国比+19.2ポイント、全道比+13.8ポイント)でした。

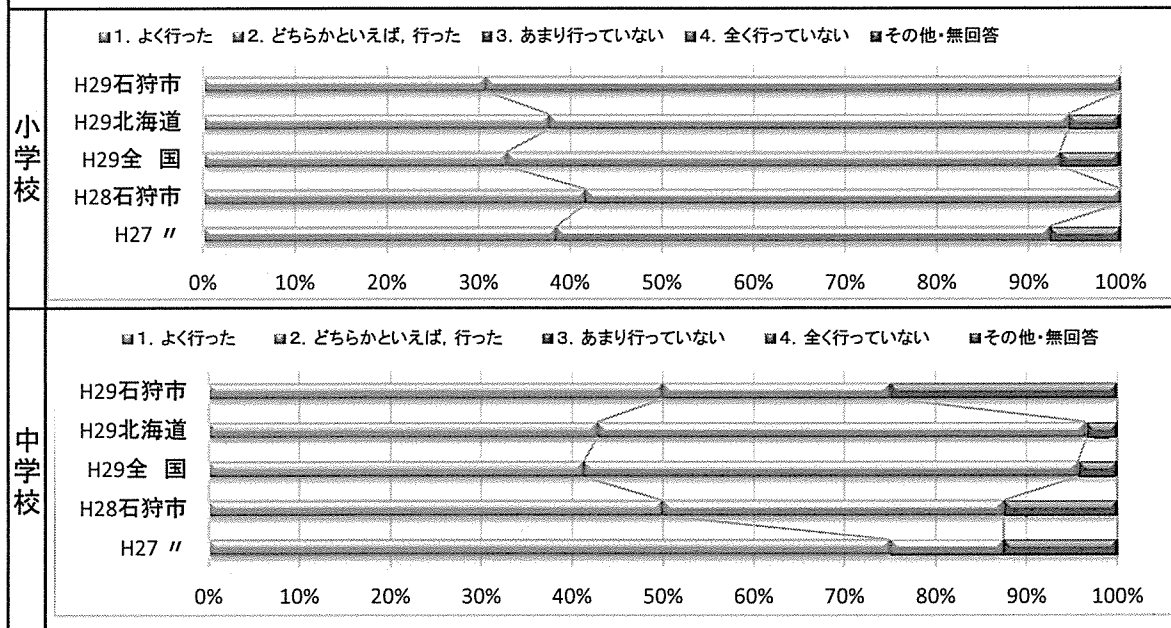
6. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか



教科の特質に注目した指導の改善に成果

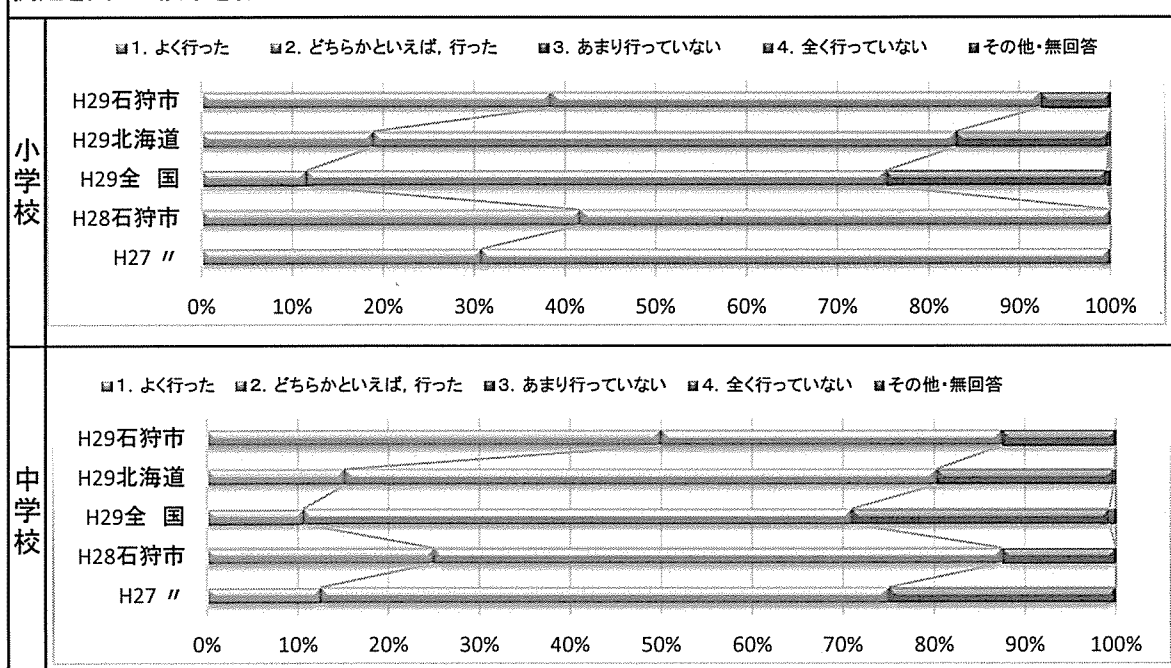
・国語の指導として、「書く習慣を付ける授業をよく行った」割合は、小学校で30.8%(全国比-2.3ポイント, 全道比-6.9ポイント)で、中学校では50.0%(全国比+8.7ポイント, 全道比+7.2ポイント)でした。

7. 調査対象学年の児童・生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか



・算数・数学の指導として、「前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行った」割合は、小学校で38.5%(全国比+27.0ポイント, 全道比+19.6ポイント)で、中学校では50.0%(全国比+39.4ポイント, 全道比+34.8ポイント)でした。

8. 調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

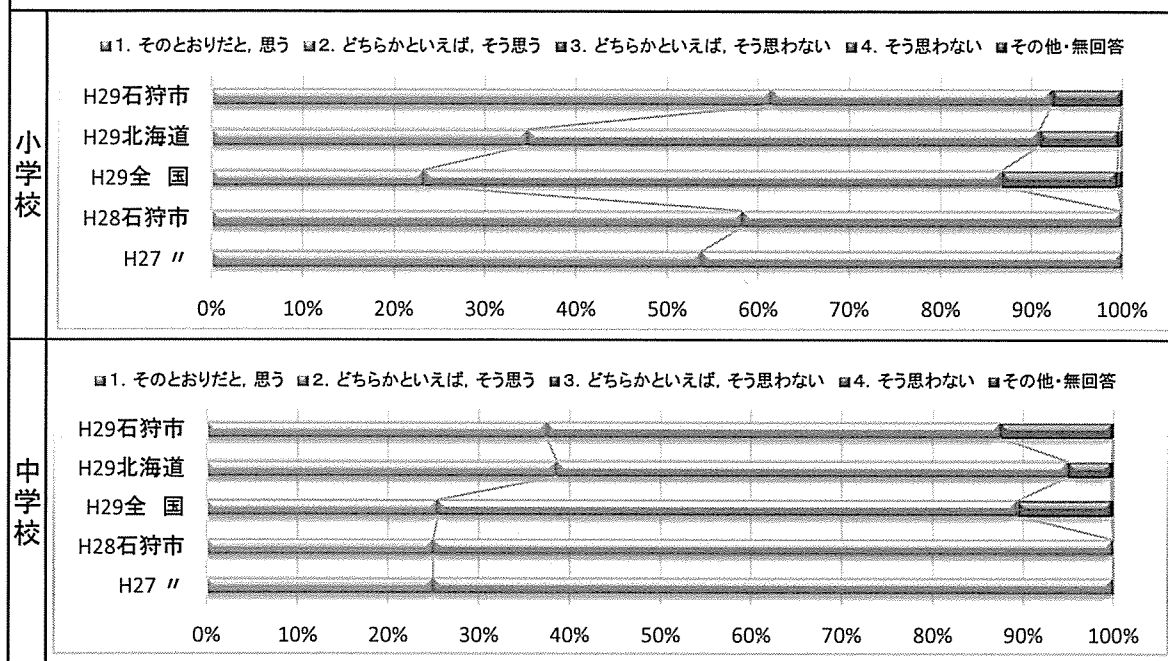


IV 言語活動

言語活動を取り入れた授業が定着

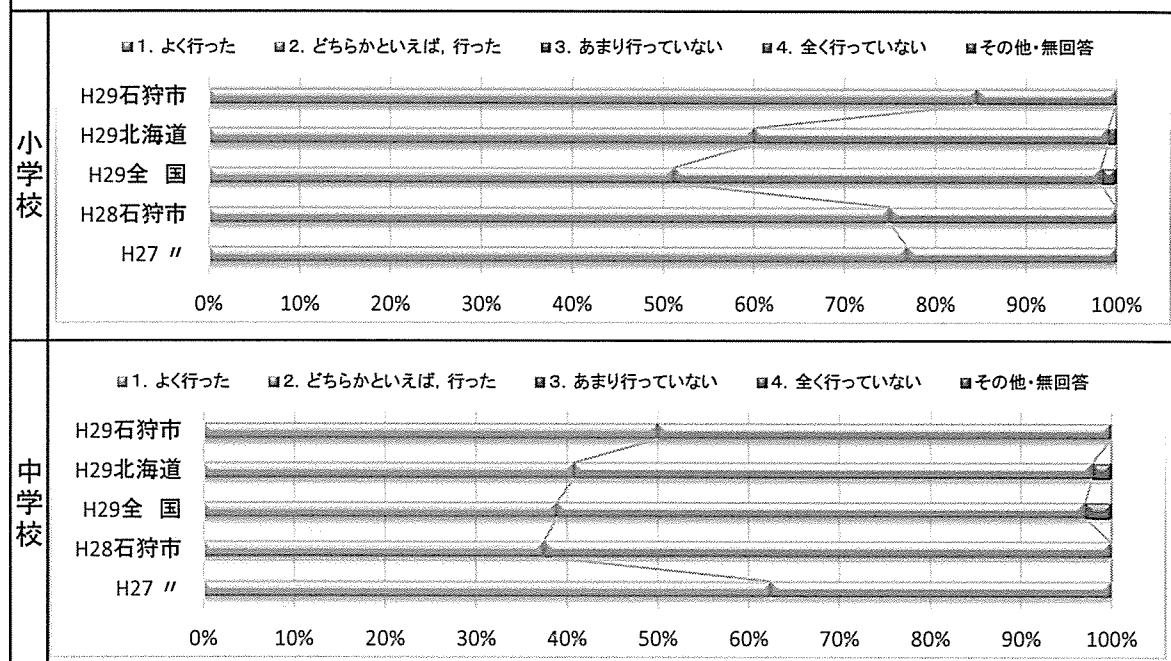
・学級やグループでの話し合いなどの活動で、「相手の考えを最後まで聞くことができている・どちらかといえばできている」割合は、小学校で92.3%(全国比+5.6ポイント、全道比+1.4ポイント)で、中学校では87.5%(全国比+1.8ポイント、全道比+7.5ポイント)でした。

9. 調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか



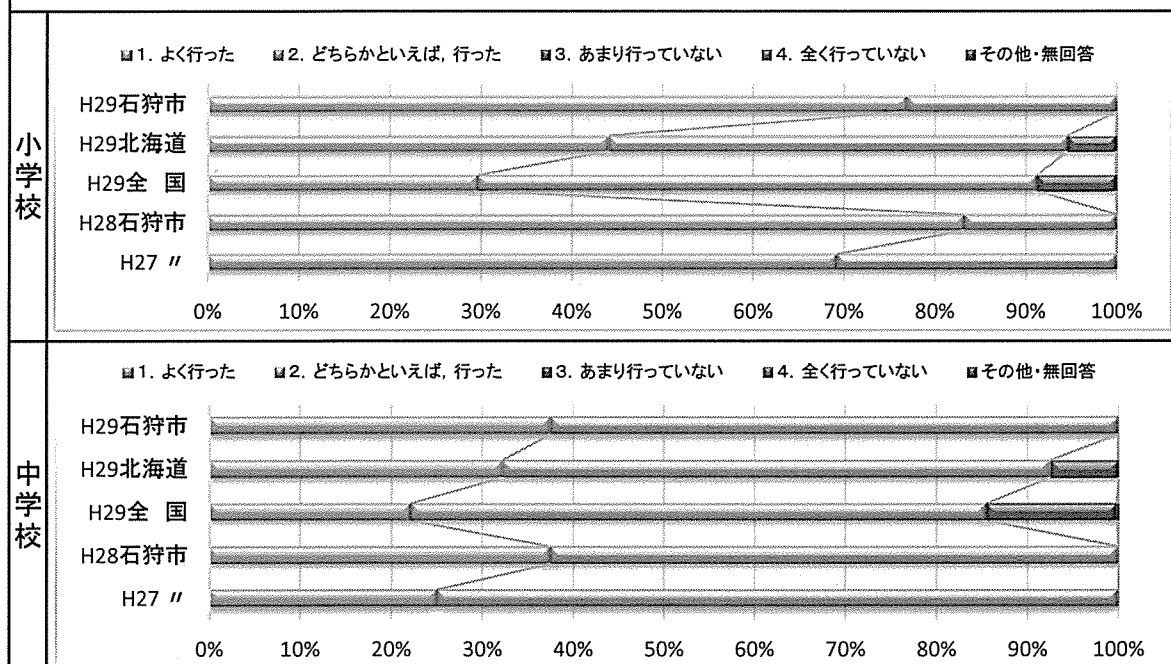
・「発言や活動の時間を確保して授業を進めた・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100.0%(全国比+1.7ポイント、全道比+1.0ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+3.0ポイント、全道比+2.1ポイント)でした。

10. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか



・「資料を使って発表ができるよう指導した・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100.0%(全国比+8.8ポイント、全道比+5.3ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+14.5ポイント、全道比+7.5ポイント)でした。

11. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか

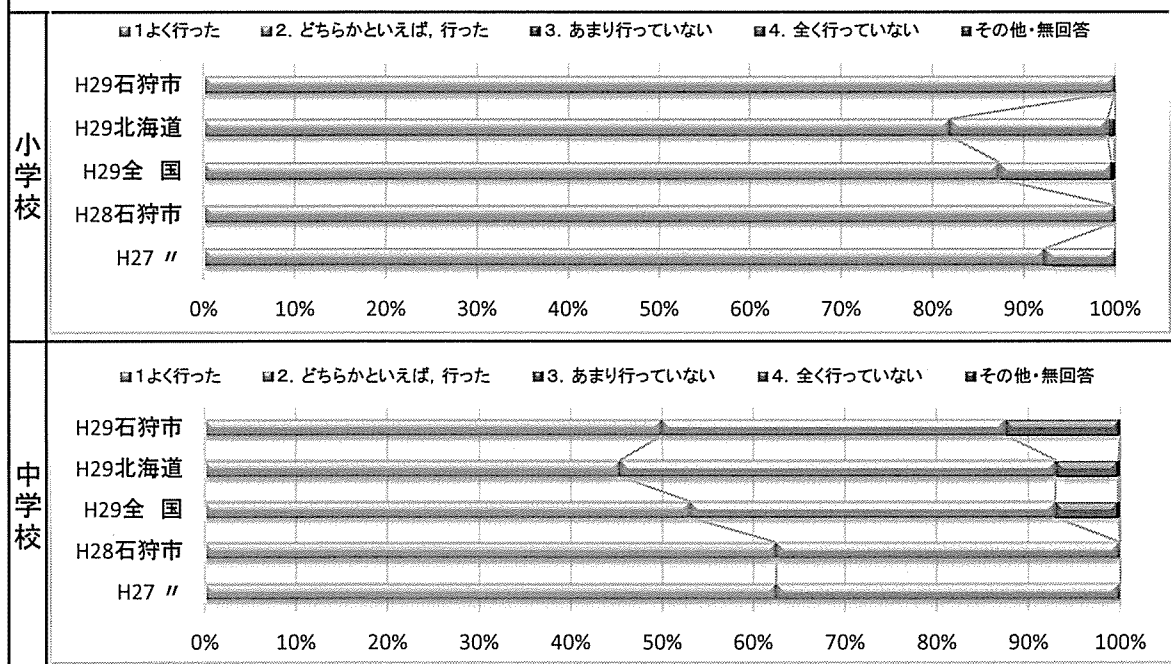


V 家庭学習・家庭との連携

家庭学習への認識が高まり、家庭との連携も定着

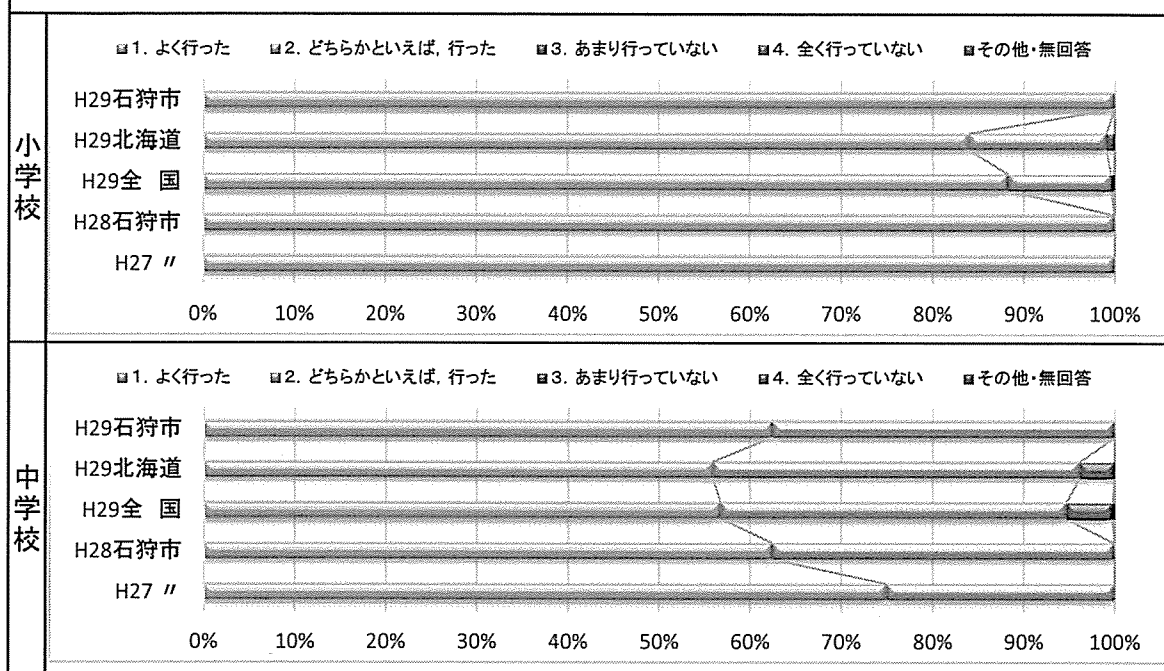
・国語の指導として、「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で100%(全国比+12.7ポイント、全道比+18.1ポイント)で、中学校では、50.0%(全国比-3.1ポイント、全道比+4.6ポイント)でした。

12. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



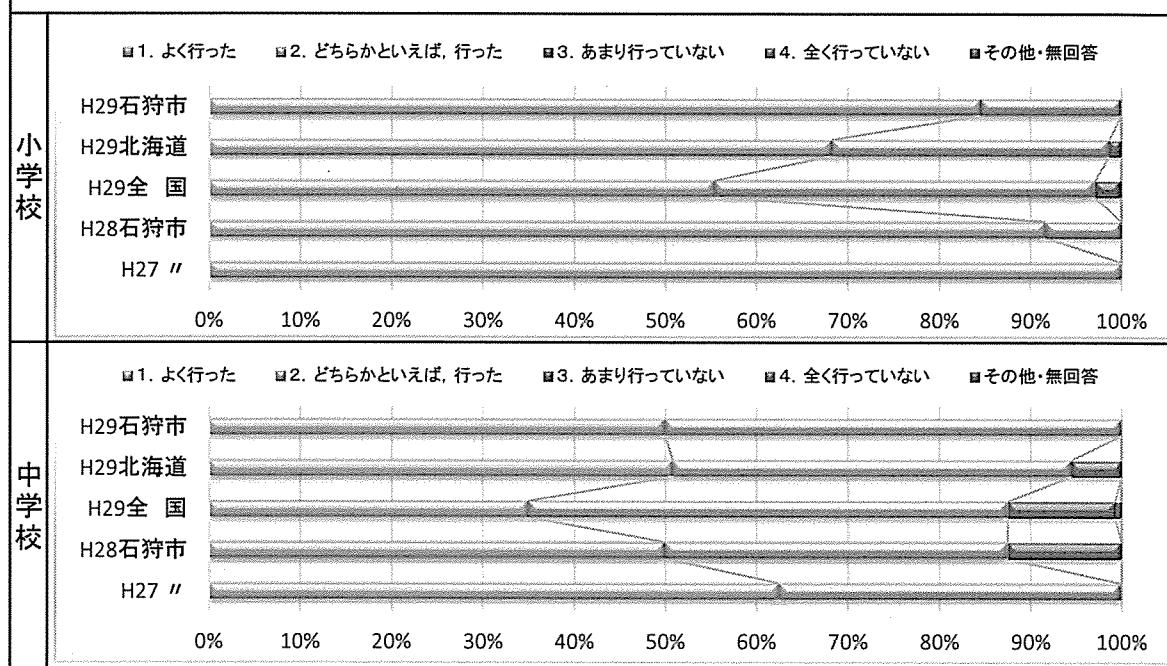
・算数・数学の指導として、「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で100.0%(全国比+11.7ポイント、全道比+16.1ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+5.7ポイント、全道比+6.5ポイント)でした。

13. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



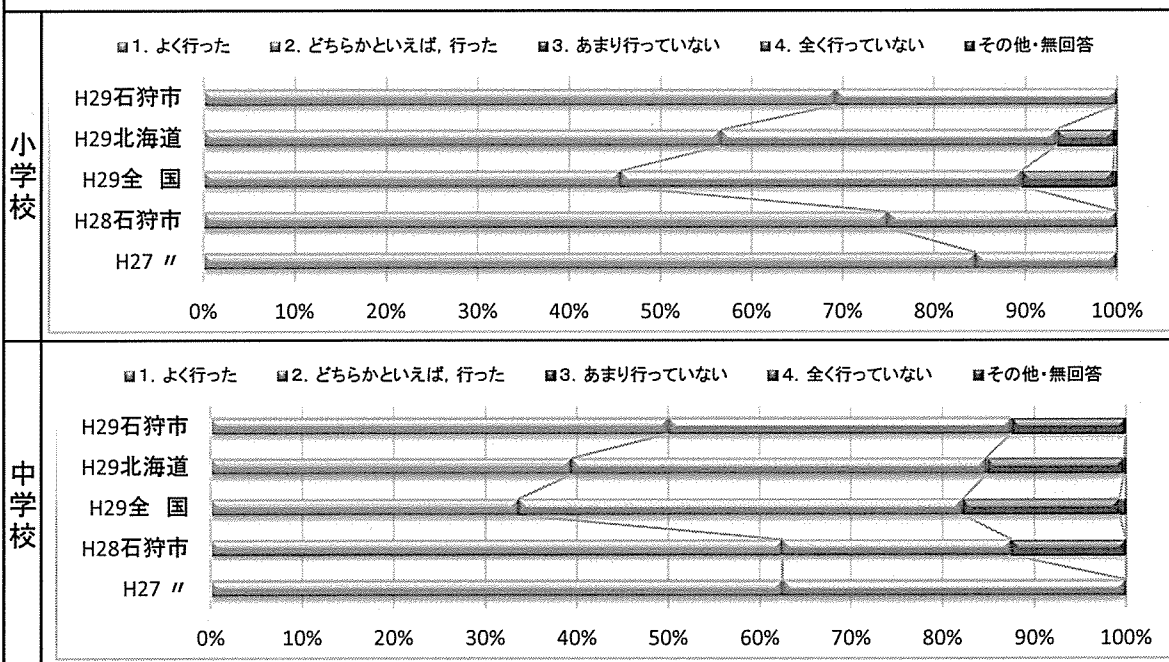
・「児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけをよく行った(国語／算数・数学共通)」割合は、小学校で84.6%(全国比+29.2ポイント、全道比+16.3ポイント)で、中学校では、50.0%(全国比+15.0ポイント、全道比-0.8ポイント)でした。

14. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)



・「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解をよく図った(国語／算数・数学共通)」割合は、小学校で69.2%(全国比+23.6ポイント、全道比+12.6ポイント)で、中学校では50.0%(全国比+16.4ポイント、全道比+10.6ポイント)でした。

15. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語／算数・数学共通)

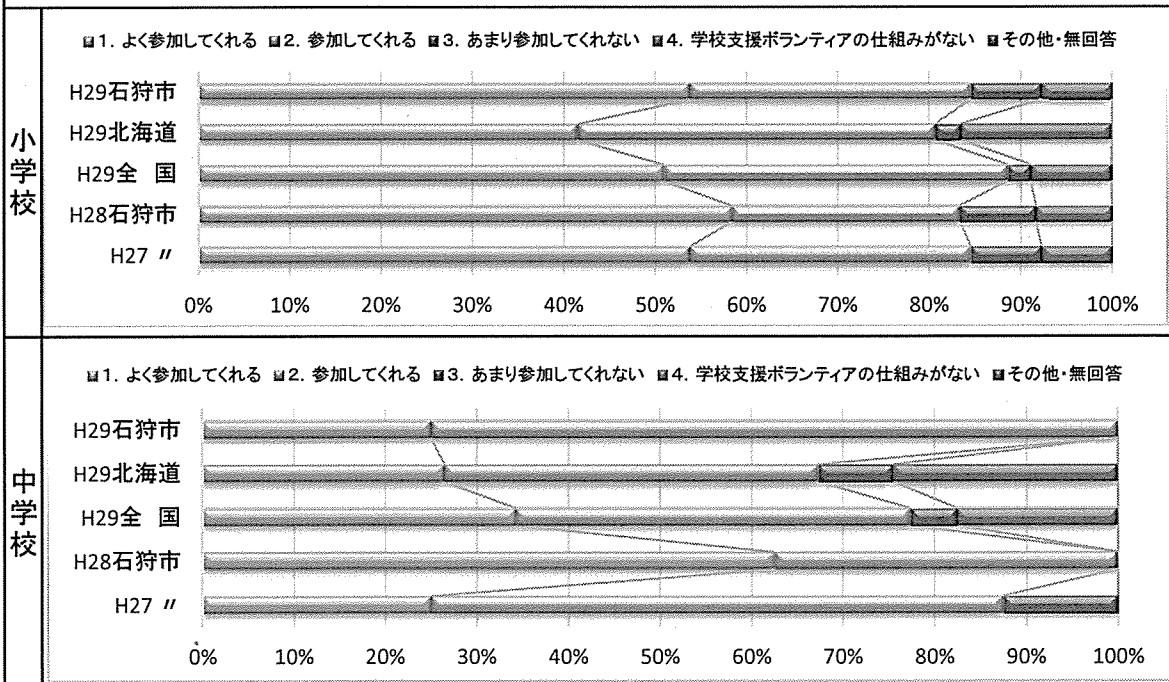


VI 地域・学校間連携

地域・小中間の連携教育は着実に進展

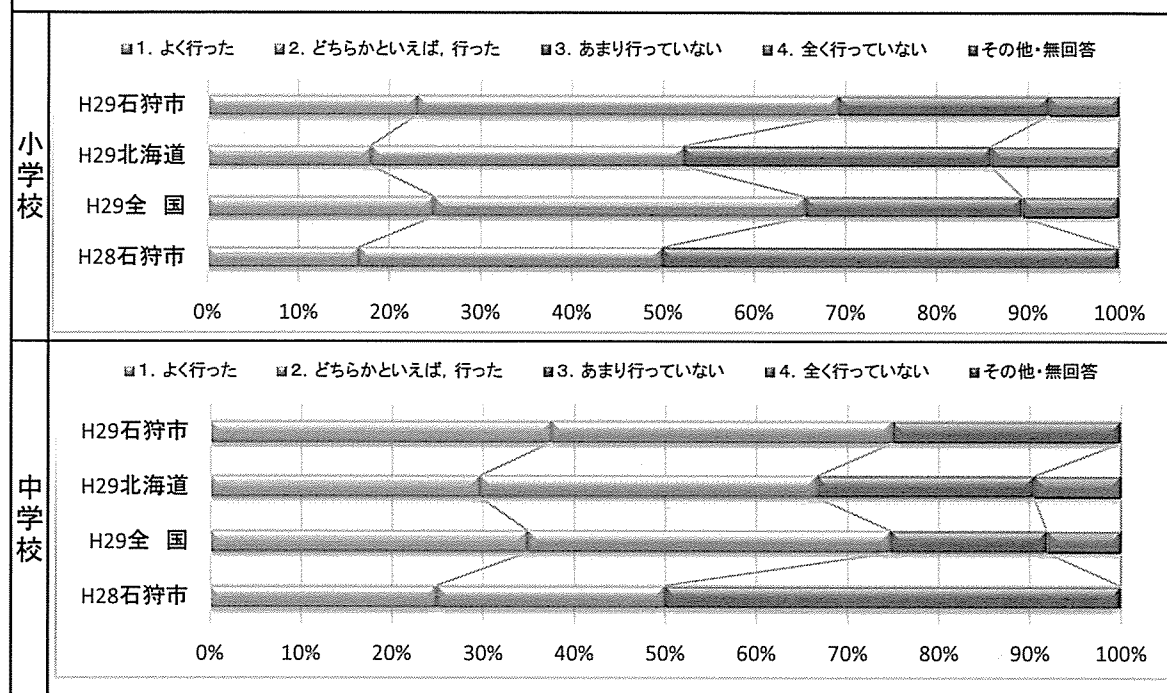
・学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、「保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動によく参加してくれる・参加してくれる」は、小学校で84.6%(全国比-4.1ポイント、全道比+3.9ポイント)で、中学校では100%(全国比+22.6ポイント、全道比+32.7ポイント)でした。

16. 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか



・「前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」について、よく行った・どちらかといえば行った割合は、小学校で69.3%(全国比+3.7ポイント、全道比+17.0ポイント)で、中学校は75.0%(全国比+0.2ポイント、全道比+8.3ポイント)でした。

17. 前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか



・全国学力・学習状況調査の分析結果について、「近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した・どちらかといえば共有した」割合は、小学校で92.3%(全国比+39.3ポイント、全道比+30.4ポイント)で、中学校では100%(全国比+43.2ポイント、全道比+31.7ポイント)でした。

18. 平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか

